



茨城県

# 茨城県景気ウォッチャー調査

(平成16年12月調査分)

## 景気の現状判断DI

	平成16年9月	平成16年12月	前回調査比
茨城県	49.9	<b>48.3</b>	-1.6
県北地域	50.4	<b>42.4</b>	-8.0
県央地域	47.7	<b>49.1</b>	+1.4
鹿行地域	52.2	<b>52.3</b>	+0.1
県南地域	50.0	<b>47.8</b>	-2.2
県西地域	49.1	<b>50.0</b>	+0.9

## 景気の先行き判断DI

	平成16年9月	平成16年12月	前回調査比
茨城県	52.0	<b>46.0</b>	-6.0
県北地域	53.4	<b>43.8</b>	-9.6
県央地域	51.4	<b>48.7</b>	-2.7
鹿行地域	51.8	<b>44.5</b>	-7.3
県南地域	51.8	<b>44.6</b>	-7.2
県西地域	51.4	<b>48.6</b>	-2.8

平成17年1月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

## 目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断D I	4
(2) 景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
(1) 景気の現状判断D I	6
(2) 景気の先行き判断D I	8
3 回答率	11
景気の判断理由	12
1 景気の現状判断理由	12
2 景気の先行き判断理由	18
3 その他の意見	23

# 調査の概要

## 1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

## 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

## 4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成16年12月調査の調査期間は平成16年12月6日から28日である。

## 5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### 景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

### 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、  
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

# 調査結果の概要

## 1 全県の動向

### (1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」・「やや良くなっている」の回答構成比が増加したものの、「悪くなっている」・「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、1.6ポイント減の48.3となり、9月調査分に引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

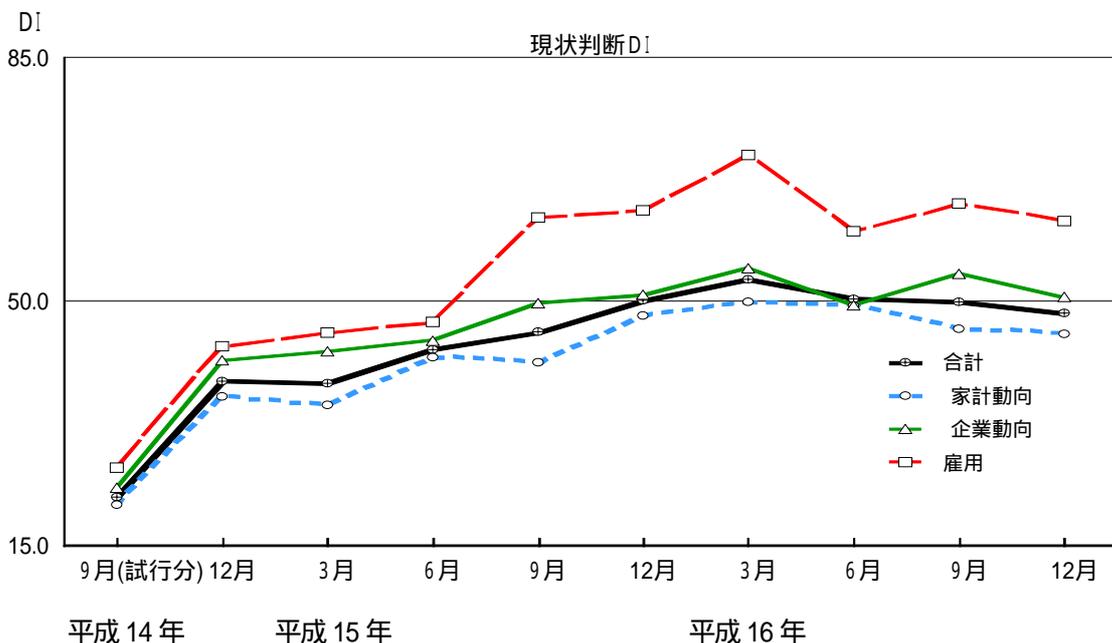
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.1	53.1	50.3	49.9	48.3
家計動向関連	家計動向関連	47.9	49.9	49.3	46.0	45.3
	小売関連	47.1	49.6	49.6	48.4	45.1
	飲食関連	43.8	48.6	43.4	50.0	41.7
	サービス関連	49.1	48.5	48.7	42.6	46.2
	住宅関連	52.8	66.7	63.9	50.0	47.2
企業動向関連	企業動向関連	50.9	54.7	49.4	53.9	50.6
	農林水産業	34.4	37.5	34.4	50.0	42.9
	製造業	56.0	58.1	49.5	51.6	50.5
	非製造業	47.4	54.5	53.3	58.6	52.6
雇用関連		63.0	71.0	60.0	64.0	61.5

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年12月	3.8%	27.2%	41.8%	19.9%	7.3%
平成16年3月	5.0%	29.2%	44.5%	16.0%	5.3%
平成16年6月	2.5%	26.9%	44.1%	22.2%	4.3%
平成16年9月	0.7%	24.9%	52.3%	17.4%	4.6%
平成16年12月	1.8%	25.3%	43.0%	24.2%	5.8%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、6.0ポイント減の46.0となった。9月調査分を下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

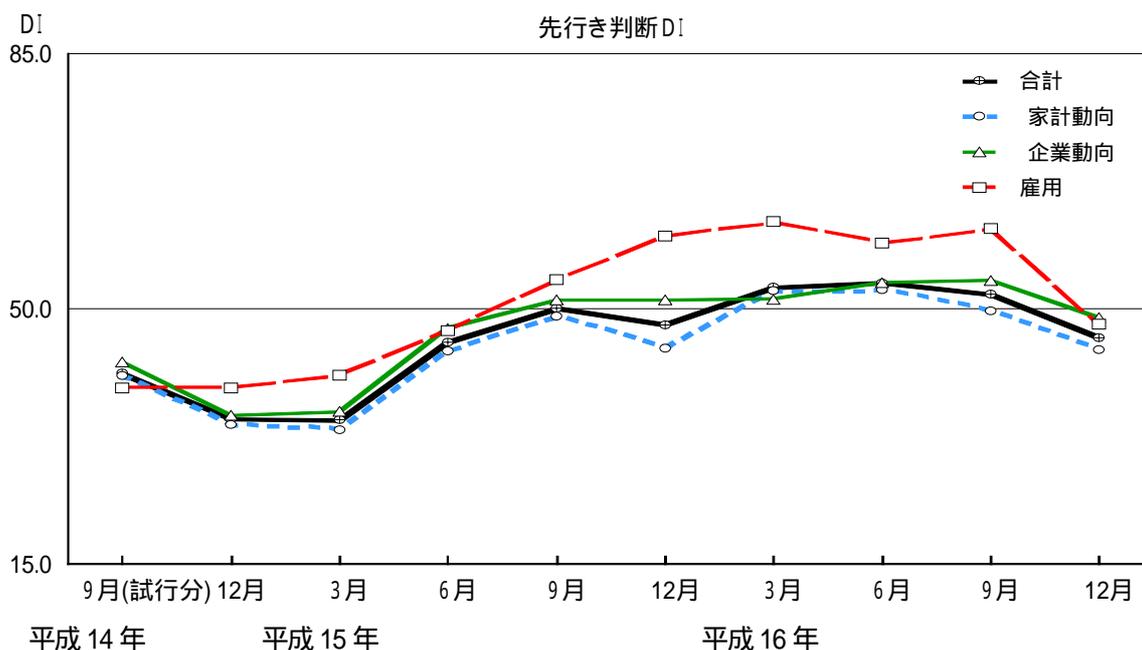
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		47.8	53.0	53.5	52.0	46.0
家計動向関連	家計動向関連	44.6	52.5	52.6	49.7	44.4
	小売関連	47.5	51.8	54.0	51.6	46.2
	飲食関連	42.5	54.2	43.4	52.5	40.3
	サービス関連	41.9	50.6	53.5	48.5	43.6
	住宅関連	50.0	72.2	55.6	40.6	47.2
企業動向関連	企業動向関連	51.2	51.3	53.6	53.9	48.8
	農林水産業	50.0	56.3	50.0	50.0	53.6
	製造業	52.7	50.0	48.9	53.6	48.4
	非製造業	49.1	51.8	61.7	55.2	48.3
雇用関連		60.0	62.0	59.0	61.0	47.9

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年12月	2.1%	21.3%	49.1%	20.9%	6.6%
平成16年3月	2.5%	29.2%	50.2%	14.2%	3.9%
平成16年6月	3.2%	24.0%	59.1%	10.8%	2.9%
平成16年9月	0.7%	27.0%	55.5%	12.8%	3.9%
平成16年12月	0.7%	14.4%	57.8%	22.4%	4.7%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1) 景気の現状判断DI

#### 県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは42.4であり、9月調査分と比べて8.0ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.3	53.0	48.7	50.4	42.4
家計動向関連		43.9	49.3	47.8	45.1	38.6
企業動向関連		54.4	54.4	45.6	57.4	47.1
雇用関連		60.0	75.0	65.0	65.0	56.3

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	1.7%	30.5%	40.7%	13.6%	13.5%
平成16年3月	10.2%	18.6%	50.8%	13.6%	6.8%
平成16年6月	1.8%	23.2%	50.0%	17.9%	7.1%
平成16年9月	1.7%	22.4%	56.9%	13.8%	5.2%
平成16年12月	0.0%	10.7%	53.6%	30.4%	5.4%

#### 県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.1であり、9月調査分と比べて1.4ポイント上回ったものの、引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが9月調査分を上回ったが、雇用関連DIが9月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.9	53.6	52.2	47.7	49.1
家計動向関連		49.3	47.9	48.6	42.1	45.1
企業動向関連		50.0	61.7	56.3	53.3	55.0
雇用関連		65.0	70.0	65.0	70.0	60.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	1.8%	24.6%	54.4%	14.0%	5.2%
平成16年3月	1.8%	30.4%	51.8%	12.5%	3.5%
平成16年6月	0.0%	32.1%	46.4%	19.6%	1.8%
平成16年9月	1.8%	23.6%	45.5%	21.8%	7.3%
平成16年12月	1.8%	25.0%	46.4%	21.4%	5.4%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.3であり、9月調査分と比べて0.1ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが9月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが9月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		46.1	49.5	50.9	52.2	52.3
家計動向関連		44.6	46.5	50.0	46.5	45.8
企業動向関連		48.4	51.8	51.8	61.7	62.5
雇用関連		50.0	65.0	55.0	65.0	70.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	5.2%	19.0%	39.7%	27.6%	8.5%
平成16年3月	3.6%	25.5%	47.3%	12.7%	10.9%
平成16年6月	1.9%	27.8%	46.3%	20.4%	3.7%
平成16年9月	0.0%	35.7%	41.1%	19.6%	3.6%
平成16年12月	3.6%	34.5%	32.7%	25.5%	3.6%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは47.8であり、9月調査分と比べて2.2ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが9月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		56.1	55.4	53.9	50.0	47.8
家計動向関連		55.0	56.4	54.4	49.3	49.3
企業動向関連		50.0	45.3	50.0	50.0	44.1
雇用関連		85.0	80.0	65.0	55.0	50.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	8.8%	33.3%	35.1%	19.3%	3.5%
平成16年3月	5.4%	37.5%	33.9%	19.6%	3.6%
平成16年6月	5.3%	33.3%	35.1%	24.6%	1.8%
平成16年9月	0.0%	19.3%	63.2%	15.8%	1.8%
平成16年12月	0.0%	28.6%	41.1%	23.2%	7.1%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、9月調査分と比べて0.9ポイント上回り、横這いを表す50.0となった。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが9月調査分を上回ったが、企業動向関連DIが9月調査分を下回った。

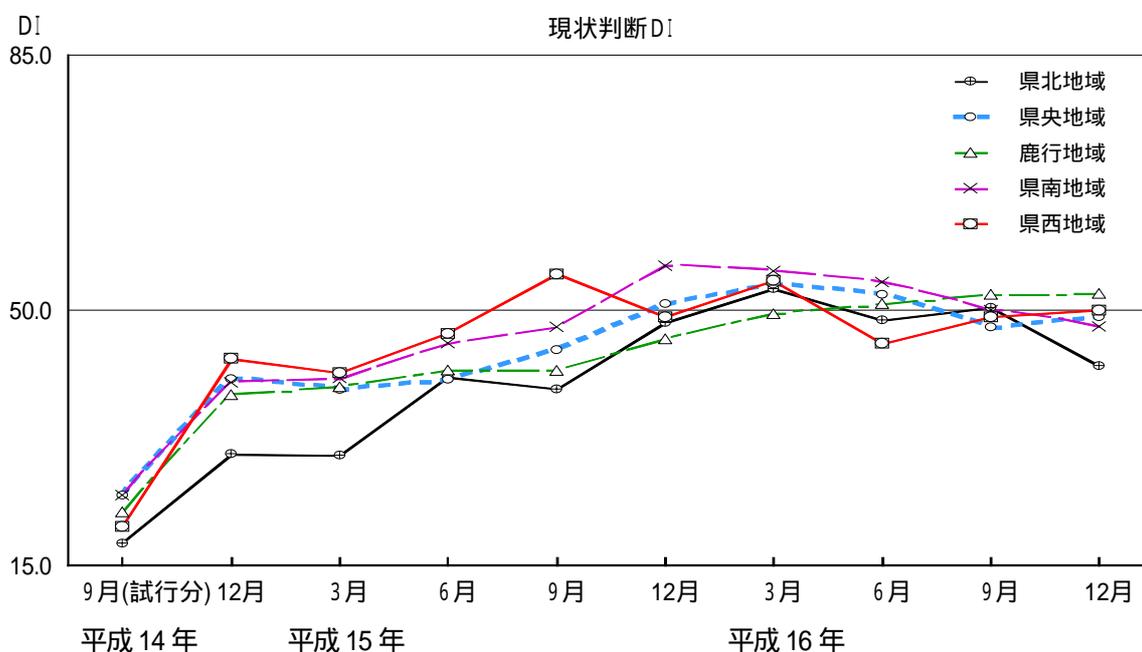
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		49.1	54.1	45.5	49.1	50.0
家計動向関連		47.0	49.2	45.3	46.9	48.3
企業動向関連		51.4	60.3	44.7	48.6	47.4
雇用関連		55.0	65.0	50.0	65.0	70.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	1.8%	28.6%	39.3%	25.0%	5.3%
平成16年 3月	3.6%	34.5%	38.2%	21.8%	1.9%
平成16年 6月	3.6%	17.9%	42.9%	28.6%	7.1%
平成16年 9月	0.0%	23.6%	54.5%	16.4%	5.5%
平成16年12月	3.7%	27.8%	40.7%	20.4%	7.4%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは43.8であり、9月調査分と比べて9.6ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		43.2	52.5	50.0	53.4	43.8
家計動向関連		35.8	53.4	50.0	52.1	40.7
企業動向関連		54.4	48.5	48.5	54.4	47.1
雇用関連		60.0	60.0	55.0	60.0	56.3

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	1.7%	16.9%	47.5%	20.3%	13.6%
平成16年3月	5.1%	22.0%	52.5%	18.6%	1.7%
平成16年6月	0.0%	21.4%	60.7%	14.3%	3.6%
平成16年9月	0.0%	25.9%	63.8%	8.6%	1.7%
平成16年12月	0.0%	7.1%	66.1%	21.4%	5.4%

### 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは48.7であり、9月調査分と比べて2.7ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月	平成16年 9月	平成16年 12月
	合計		48.2	51.8	55.8	51.4
家計動向関連		45.3	48.6	53.6	48.6	46.5
企業動向関連		55.0	56.7	59.4	55.0	53.3
雇用関連		50.0	60.0	60.0	60.0	50.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	0.0%	22.8%	52.6%	19.3%	5.3%
平成16年3月	1.8%	23.2%	58.9%	12.5%	3.6%
平成16年6月	3.6%	28.6%	57.1%	8.9%	1.8%
平成16年9月	0.0%	25.5%	56.4%	16.4%	1.8%
平成16年12月	3.6%	12.5%	62.5%	17.9%	3.6%

### 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは44.5であり、9月調査分と比べて7.3ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月	平成16年 9月	平成16年 12月
	合計		49.6	55.5	50.5	51.8
家計動向関連		46.6	54.9	49.3	47.9	41.0
企業動向関連		54.7	51.8	51.8	58.3	53.6
雇用関連		55.0	70.0	55.0	60.0	45.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	3.4%	22.4%	50.0%	17.2%	7.0%
平成16年3月	3.6%	38.2%	41.8%	9.1%	7.3%
平成16年6月	1.9%	22.2%	55.6%	16.7%	3.7%
平成16年9月	0.0%	33.9%	44.6%	16.1%	5.4%
平成16年12月	0.0%	14.5%	56.4%	21.8%	7.3%

### 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは44.6であり、9月調査分と比べて7.2ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.0	50.4	56.1	51.8	44.6
家計動向関連		49.3	50.7	58.1	50.0	47.1
企業動向関連		42.6	51.6	50.0	52.8	39.7
雇用関連		80.0	45.0	65.0	60.0	45.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	5.3%	19.3%	50.9%	19.3%	5.2%
平成16年 3月	1.8%	23.2%	53.6%	17.9%	3.5%
平成16年 6月	7.0%	24.6%	56.1%	10.5%	1.8%
平成16年 9月	1.8%	26.3%	54.4%	12.3%	5.3%
平成16年12月	0.0%	17.9%	46.4%	32.1%	3.6%

### 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは48.6であり、9月調査分と比べて2.8ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、企業動向関連DIが9月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIが9月調査分を下回った。

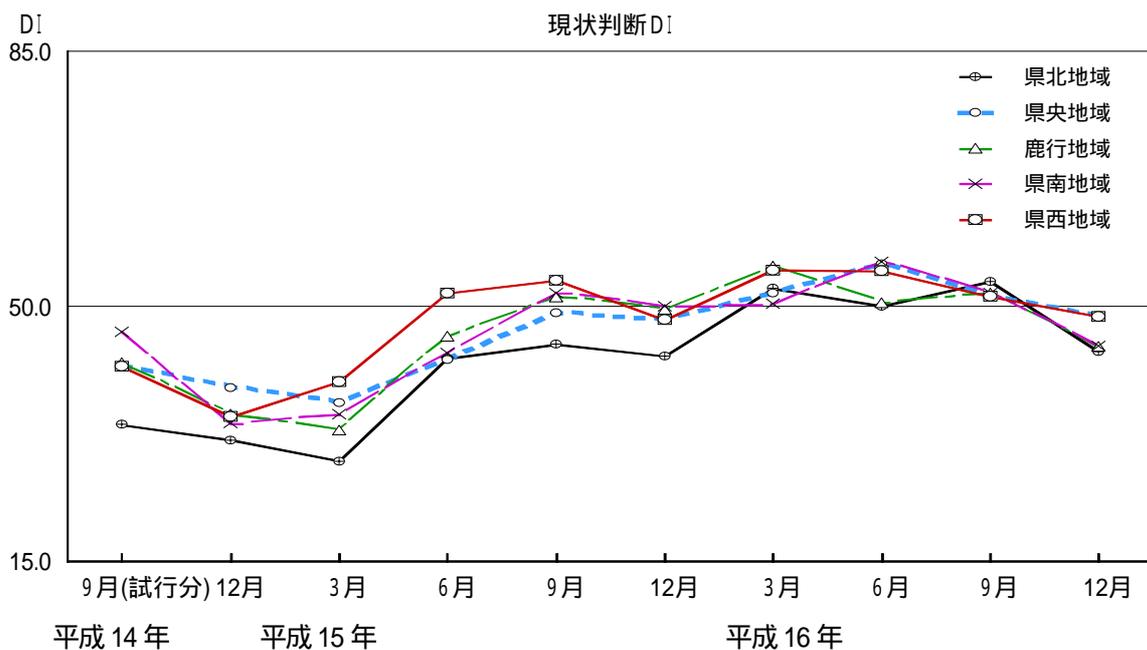
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年	平成16年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		48.2	55.0	54.9	51.4	48.6
家計動向関連		46.1	55.3	52.3	50.0	47.5
企業動向関連		50.0	48.5	57.9	50.0	51.3
雇用関連		55.0	75.0	60.0	65.0	45.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年12月	0.0%	25.5%	43.6%	29.1%	1.8%
平成16年 3月	0.0%	40.0%	43.6%	12.7%	3.7%
平成16年 6月	3.6%	23.2%	66.1%	3.6%	3.6%
平成16年 9月	1.8%	23.6%	58.2%	10.9%	5.5%
平成16年12月	0.0%	20.4%	57.4%	18.5%	3.7%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



### 3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	277 人	92.3%
県北地域	60 人	56 人	93.3%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	55 人	91.7%
県南地域	60 人	56 人	93.3%
県西地域	60 人	54 人	90.0%

# 景気の判断理由

## 1 景気の現状判断理由

### (1) 県北地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	観光型ホテル	収益が増加している。	
		ゴルフ場	先行きに対して大きな不安感がなくなったように感じられる。客にもものびやかさが感じられるようになった。	
	企業関連	製造業（電気機械器具）	全体的に受注が増加しつつある。	
		製造業（輸送用機械器具）	カーメーカーの新車攻勢により、業種によっては作業量の拡大が見られる。	
	雇用関連	人材派遣業	雇用の延長が増加しており、解約も減少している。	
		商店街代表者	地元企業の増員による購買意欲の向上に期待していたが、はっきりと回復しているという様子は見られなかった。	
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	売上げが前年を割り込んでしまっている店舗が7割を占めている。また、客の購買力を表す客単価も前年を割り込んだままである。	
		農産物直売所	3か月前は野菜の高騰により売上げは上昇傾向にあったが、現在は価格も安定しており売上げの上昇は見られない。客も必要な物しか買わず、余計な物は買わない。	
		小売業（土産物）	御歳暮時のため売上げは良くなってきているが、前年より客単価が低下している。	
		スナック	現役の40代・50代の客がいないためか、金曜日でも暇な日が多くなった。また、客単価が低下してきた。	
		居酒屋	仕事量が変わらない。	
		観光型ホテル	売上げが昨年とほぼ同水準で推移しており、特段の変化は見られない。	
		タクシー運転手	営業回数に変化がなく、1回当たりの単価も伸びない。	
		ドライブイン	客数は晴天の日に伸び、雨天の日に下がる傾向にあり、平均すると変わらない。	
		レジャー施設	例年に比べ若干入場者数は伸びたが、天候に恵まれたという要因を除けば変わりはないと思われる。	
		理・美容店	人の流れや客数に変化が見られない。	
		クリーニング店	景気の良い話が聞かれない。客数、客単価も変わらない。	
		住宅販売会社	受注数に変化がない。	
		企業関連	林業関係者	丸太の販売等において、安値が続いている。
			製造業（食品）	健康ブームに乗って売上げは前年実績を確保している。
			製造業（一般機械器具）	仕事の繁忙感にさしたる変化はない。
			製造業（一般機械器具）	仕事量や忙しさに変化がない。
			製造業（電気機械器具）	短納期対応のため一時的な繁忙感はあるが、景気そのものの好転は実感できない。
			製造業（電気機械器具）	長くても3か月程度の仕事が主であり、来月にはまた無くなってしまう。このような状況が続いており、従業員のやりくりが大変である。
			製造業（電気機械器具）	生産台数が比較的好調のまま推移している。
			非製造業（建設業）	見積り件数は増加しているものの、競争が激しいため落札しても非常に厳しい内容となっている。
非製造業（金融業）	輸出関連の一部の製造業では引き続き好調を維持しているが、全体に波及するものではなく、飲食業、販売業を含め例年の年末とさして変化はないように思われる。			
非製造業（不動産業）	分譲マンションの販売状況が好調であるが、戸建分譲は動きが鈍く、依然として市場は低迷したままである。			
非製造業（情報処理サービス）	新規の客からの仕事が出てきていない。			
雇用関連	求人開拓員	忙しい企業（勝ち組企業）もあるが、全体的には上向きでない。		
	求人広告	変わらないと思われるが、一部地域では雇用を増やしている企業が出てきている。		
	公共職業安定所	新規求人数が減少傾向にあり、求人条件等のミスマッチなどから就職件数も伸び悩んでいる。		
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	災害が多かったこともあるが、購買意欲が冷めてきた気がする。特に外食への影響が大きいようである。	
		コンビニエンスストア	客数については回復傾向にあるものの、客単価が依然として低下し続けている。	
		スーパー	1人当たりの買上金額及び買上点数の前年対比が3か月前よりも悪化している。	
		家電販売店	所得の差が出ているのか、客は量販店を上手に使い分けており、欲しい商品を最安値の店で購入することが多くなってきている。	
		ガソリンスタンド	度重なる仕入価格の値上がりを販売価格に転嫁できていない。また、大手企業の拡販により中小の業者は利幅がなくなっており、販売数量も減少気味である。	
		小売業（靴製品）	暖冬のため冬物の動きが悪い。また、野菜の値上がりが家計に響いているようだ。	
		居酒屋	新潟県中越地震や台風による被害があり、また気温も平年より高いため、景気が良くなっているという話が聞かれず、居酒屋業界全般でも客数は戻っていない。	
		食堂	企業のボーナスが4割程度カットされたようであり、忘年会や新年会の予約がない。	
		観光型ホテル	売上げが減少している。	
		旅行代理店	年末賞与が出ないとの話が多く聞かれる。また、年末年始の温泉旅館の予約について、大晦日と元旦を除いてはどの地区でも空室がかなり多いようである。	
		タクシー運転手	今年上期はまあまあであったが、下期は出足が悪い。忘年会に期待したい。	
		タクシー運転手	1日当たりの営業回数及び売上げが減少しており、待機時間も長くなっている。特に、土・日・祝日の仕事が減少している。駅での人の乗り降りも少なく、夜の居酒屋等の客も少ない。	
		レジャー施設	売上高及び利用単価が減少している。特に10月の台風の影響による天候不順が大きな原因となった。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	ゲームセンター	ショッピングセンターの集客力が一段と落ちており、売上げが減少してきている。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	主力製品のモデルチェンジにより受注量が減少している。新製品が量産化する時期はまだ未定である。
		製造業（電気機械器具）	業績数値が悪化している。
悪くなっている	家計関連	小売業（酒類）	中小企業の業績が悪くボーナスが出ていないため、依然として財布のヒモは固い。
	企業関連	タクシー運転手	ここ2～3か月、一日の営業所全体の売上げが20～30%減少している。
		水産業関係者	茨城沿岸から福島沿岸にかけては30年来の大不漁が続いており、漁業者はもちろん関連企業も大不景気となっている。

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	製造業（一般機械器具）	以前から引合い件数は増加傾向にあったが、ここにきて受注となり月々の売上げになっている。特に特注品に近い大型物件の製品が多い。当社のVIPユーザー業界が中国市場等で急拡大しており、設備投資が活発であると思われる。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	ここ何年かの減少傾向が若干持ち直している。客数、客単価が上昇している。	
		コンビニエンスストア	消費が活発になっているように感じられる。また、売上げが対前年比で良くなっている店舗も多く出ている。	
		農産物直売所	野菜の価格が上昇しているため単純な比較はできないが、売上げが増加しており、客足も伸びている。	
		都市型ホテル	忘年会の利用が昼夜とも増加しており、ホテル全体が賑わいを見せている。	
		タクシー運転手	飲食店等からの依頼の電話が増加しているわけではないが、客から「個人的に飲食する機会が多くなった」との話も聞かれており、緩やかではあるが良くなっているのではと感じられる。	
		タクシー運転手	12月特有の動きではあるが忘年会シーズンのため夜の客が増加している。ただし、昼の利用客は相変わらず少ない。	
		ゴルフ場	冬季の「平日特別優待券制度」の導入により、予約申込件数に伸びが見られる。	
	企業関連	製造業（土石製品）	一時的ではあるが受注が増加した。	
		製造業（一般機械器具）	全体的に忙しい。社内でできない物を外注しようと考えているが、外注先も忙しいようである。	
		非製造業（建設業）	受注金額が増加している。ただし、地元企業への直接的な影響はないにせよ、円高によりいろいろと弊害が出てくるのではないかとと思われる。	
		非製造業（輸送業）	年末ということもあり秋口より貨物は動いている。また、素材産業で製品単価を値上げできた企業は好調のようである。	
		非製造業（情報処理サービス）	客からの仕事の引合いが活発である。	
	雇用関連	人材派遣業	派遣人数が微増している。	
公共職業安定所		10月の管内事業所業況調査では業況DIが前回調査比で0.3ポイント改善した。また11月の求職申込件数は3か月ベースでは対前年同期比で8か月連続で減少しており、求人数も対前年同月比で増加している。雇用調整助成金の計画提出もない。		
変わらない	家計関連	商店街代表者	売上額等に大きな変化がない。	
		百貨店、総合スーパー	9月は秋のファッションを意識した婦人服関連が好調であったが、10月・11月は苦戦を強いられた。12月は暖冬とはいえ気温の冷え込みとともにミセスを中心とした婦人服・服飾雑貨の動きが良い。	
		スーパー	客はチラシを見て安い店、安い時を選んで買物をしている。	
		スーパー	客1人当たりの買上高、買上点数に変化がない。買上点数はむしろ減少気味である。	
		専門スーパー	新潟中越地震等の影響で消費行動は活発になっているが、一般的な生活に関する消費には大きな変化が見られない。気温が平年より高いことも消費をかさ上げしていると考えられるため、平年並みに冷えてきた時の消費者の動向に注意していきたい。	
		自動車販売店	新型車発売の効果が長続きしない。	
		スーパー	客数は前年をクリアしているが、単価が下落している。	
		専門スーパー	土木、建築資材関係の動きは良くなってきているが、米価の下落や野菜等の出荷不順のためか、商品の動向は思わしくない。	
		観光型ホテル	冬の季節料理（主にアンコウ）を目当てに来る客が多い。ただし、稼働率は微増にとどまっている。	
		旅行代理店	個人客はまあまあだが、団体客に変化は見られない。	
		タクシー運転手	12月は忘年会などの会合が多い時期であるが、そう変わりはない。	
		タクシー運転手	忘年会シーズンのため期待していたが特別忙しくなったわけでもない。会費制の忘年会がほとんどのため、自分の金を使うことができないのではないだろうか。	
		観光名所	猛暑や台風の影響もあった3か月前に比べて、最近では冬にもかかわらず暖かい日が続いており例年よりも人出がある。しかしながら、売上げ的には時期による差はあるものの変わらない。	
		レジャー施設	9月から10月にかけて台風の影響でやや利用者数が減少したが、11月からは好天が続いており、前年同期に比べ利用者数総計に変わりはない。	
		理・美容店	相変わらずである。料金を少し下げて集客に努めている。	
		住宅販売会社	客の動向等に変化が見受けられない。	
		企業関連	製造業（食品）	客の買上金額が500～600円程度にとどまっている。客単価が一向に上昇せず、従来通りである。
			製造業（出版・印刷業）	例年秋から年末にかけては官公需の受注が低迷気味である。民間も冷え込みが続いており、好材料が見当たらない。
			製造業（金属製品）	特に前向きな話が聞かれない。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	非製造業（広告代理業）	年末の広告出稿数に昨年ほどの上昇が見られない。また、求人広告件数は5%ほど増加しているが、求人受け皿の増加ではなく、安易に離職するなど求職者側の問題による場合が多い。
		雇用関連	求人開拓員
		求人広告 学校就業担当者	業務拡大や新会社設立等のための増員があまり見られない。 学生に対する求人が増加していない。
やや悪く なっている	家計関連	百貨店、総合スーパー	入店客数が減少し続けているうえ、台風の影響、中越地震、暖冬など天候のせいもあってか衣料品の伸び悩みが顕著に表れている。
		家電販売店	暖冬による暖房品の低迷が大きく影響し、来客数が減少している。
		ファミリーレストラン	依然として客の財布のヒモは固い。
		レストラン	忘年会や宴会などの予算を昨年より下げたの利用が目立つ。また、宴会の一組あたりの人数も少なくなっている。
		都市型ホテル	ボーナスが前年よりかなり減少したとの話が聞かれる。また、忘年会関係でも昨年より予算を落とした予約が多く、グループも少人数化している。
		ドライブイン	客数、客単価ともに減少している。また、今までは土曜日は客数がそこそこあったが、最近は平日並になりつつある。
		レジャー施設	閑散期に入り、利用者数が予想以上に減少している。
	建築設計事務所	今年度前期は施設の設備投資が多少活発になった感もあったが、後期になり投資意欲及び景気の後退が感じられる。	
	企業関連	製造業（食品）	売上げが減少傾向にある。また、ガソリンを始めとして原料資材の価格が上昇傾向にある。
		製造業（出版・印刷業）	売上げが前年度比で減少している。また、年末なのに受注がない。
非製造業（金融業）		9月以降、比較的大口の設備資金のニーズがまったくなくなり、運転資金についての相談が増加してきている。	
非製造業（コンサルタント業）		景気を刺激する材料が見当たらない。	
悪くなって いる	家計関連	商店街代表者	商店街関係者から、人通りが悪くなっている、物をまったく購入しない等の声が多く聞かれる。
		レストラン	夜の営業に関して、客の財布のヒモの締めがかなり強くなったように感じる。
		ゲームセンター	路面店、ショッピングセンター内の店舗とも来店客数が大きく減少している。オーナーや他のテナントも同様の状況であり、サービス業全般で景気の良い話が聞かれない。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなって いる	雇用関連	人材派遣業	耐久消費財の購入や買い換えが活発で、製造業はフル稼働の状況である。
		公共職業安定所	全産業で求人増加が見られる。数年間求人をしていなかった企業からの申込みも見られるなど求人活動が活発になってきた。
やや良く なっている	家計関連	商店街代表者	前年比で若干上昇している。製鉄所の活況が消費を押し上げているようである。
		スーパー	客数が増加している。
		スーパー	年末の御歳暮時期ということもあり、客単価が上昇している。また、商品についても高額品の購入が増加している。
		コンビニエンスストア	買上点数が増加している。また、中小企業のボーナスが増加したようである。
		家電販売店	地元の大企業では残業が増加しており、従業員を募集する話も出ている。
		自動車販売店	若干であるが来店客数が増加してきたように思われる。
		割烹料理店	昨年と比べて人の出入が多く見られる。忘年会の予約も昨年より増加している。
		理・美容店	年末のため髪型を整える人が増加している。
		クリーニング店	七五三や結婚式などで利用される機会が多くなっているため、夏よりは少し取扱い量が増えてきた。また、近隣の工場では年末のため早出や残業が多くなっている。鉄鋼業も今年中の仕事がいっぱいようである。
		サービス業	緊急料金を負担してでも早期対応を要望する調査が増加している。一方では外注費を削減しようとする動きも一部の企業で見られる。
	企業関連	農業関係者	二度の台風の影響で野菜が高騰し例年にない市場価格を維持したため、被害を受けなかった作物で安定した収入を得ることができた。
		製造業（食品）	御歳暮やおせちなどの季節商材の需要がある。
		製造業（化学工業）	予算売上げに対し、大幅に利益を得ている。年末の賞与もアップする予定である。
		製造業（食品）	年末ということもあり、多少良くなっているように感じられる。しかしながら、まだまだ厳しい状態である。
		製造業（金属製品）	自動車やアジア向けの輸出が順調で、販売数は高水準にある。
		製造業（電気機械器具）	大型案件ではなく小さな案件が多いものの、受注が増加している。また、業界の来年のボーナスが3割増になるのではないかとの声が聞かれる。
		製造業（飼料製造）	原材料価格の下落に伴い販売価格も大幅に値下がりしたことから、製品需要は夏場の低迷から脱し回復基調となってきた。
		非製造業（住宅設備施工業）	年末に向け仕事が少し増加した。
		非製造業（輸送業）	12月での最後の追い込みとも考えられるが、新規の顧客からの引き合いが増加している。安全かつ確実に、顧客が満足できるシステムを構築できるかどうか鍵となると思われる。
		製造業（輸送業）	12月での最後の追い込みとも考えられるが、新規の顧客からの引き合いが増加している。安全かつ確実に、顧客が満足できるシステムを構築できるかどうか鍵となると思われる。
変わらない	家計関連	農産物直売所	年間を通して販売高・客数が安定していないため把握しづらいが、前年と比較すると同程度である。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	小売業（酒類）	野菜の高値で店全体の売上げは予算を上回っているが、部門別では雑貨、果実、嗜好品（酒等）の売上げが予算を下回っている。生活必需品については購買意欲は上向いているが、なくてもそれほど困らない物については購買意欲が薄いようである。
		書店	商店街の客が減少したままである。
		観光型ホテル	利用者数や選ばれる料理の料金から考えると、景気は変わっていないと思われる。
		観光型ホテル	利用者の状況に変化がない。
		タクシー運転手	自分自身の売上げ、会社全体での売上げともに変化がない。
		タクシー運転手	買物客が増加していない。また、外食をせずに弁当で済ませる客が増加している。
		ゴルフ場	値引きなしでは客を取れない状況である。
		室内装飾業	新築の物件やりフォームが極端に少ない。
		ドライブイン	夏までは天候に恵まれ、米が良質・安価で売行きが良かったが、10月以降の台風の影響で野菜の売行きが不安定になった。
	企業関連	製造業（窯業・土石製品）	大手企業のH16年度末の経常利益が軒並み好転との報道がある中、鉄鋼業についても中国向けの輸出及び製造業向けの鋼材が好調に伸びており、設備投資も活発である。しかしながら、中小企業にとっては製品価格の競合や生産高・売上高の低迷などまだまだ厳しい状況にあり、大企業の景気とともに好転したとは思われない。
		非製造業（金融業）	個人消費の低迷が続いている。ボーナスによる消費増に期待したい。
		非製造業（保険業）	良くない状況が続いている。
	雇用関連	民間職業紹介業	求人件数は増加傾向にあるが、人材が不足している。求職者の動きも大変鈍い。
学校就業関係者		求人件数があまり増加していない。	
求人開拓員		大手企業の収益改善、設備投資の増加が、地場産業の中小企業に期待していたほどの影響を与えていない。	
やや悪くなっている	家計関連	小売業（金物店）	客数が減少傾向にある。年末の盛況感がまったくない。
		商店街代表者	農産物価格は高値ではあったが、台風及び10月の天候不順で出荷量が少なかったため収益が少なかった。また、米作農家においては豊作ではあったが低価格のために利益が出なかった。
		商店街代表者	大手企業は好況のようだが、周囲の中小、特に小企業では廃業や倒産等が見られる。
		スーパー	暖冬の影響で冬物商品が売れていない。また、野菜やたまごなどの高値が続いているため、他の商品の買い控え傾向が見られる。
		専門スーパー	都市部では質重視の客が増加気味であるが、この地区では商圈内の「限定品」「超特価品」など、いわゆる激安品を求めるバーゲンハンターが増加している。
		小売業（薬品店）	猛暑後の夏バテで商品が動くことが期待されたが、予想を大きく下回る結果となっている。
		スナック	サッカー観戦の客が流れてこなくなった。
		小売業（菓子販売店）	年の瀬を迎え、客の財布のヒモがますます固くなっているように感じられる。
		洋食食堂	客数が減少しており、終日暇な時がある。客単価も低下しており、売上げが安定していない。
	パチンコ店	一日の平均売上げが若干減少している。また、客1人当たりの遊戯単価が低下している。	
	企業関連	住宅販売会社	住宅ローン減税の縮小などの影響が、購入者が減少している。
		製造業（化学工業）	製品の値上げ幅以上に、原料、資材の値上がりが大きく、利益は減少傾向にある。
		非製造業（不動産業）	出入りの客や業者等の様子から一時良くなるように思われた景気も、ここにきて停滞している。
悪くなっている	家計関連	観光名所職員	寒くなるにつれ予想以上に客足が遠のいている。昨年と比較しても売上げが減少している。
		日本料理店	開店以来最低の状態である。書き入れ時であるが、本当に12月かと思う働きである。

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	衣料品・身の回り品販売店	売上げが増加している。
		自動車販売店	客から景気が少し良くなってきているような話題が出てくるようになった。
		農産物直売所	台風や長雨の影響で野菜の高値が続く、比較的安価な直売所への来店客数が伸びている。
		小売業（各種食料品）	客数が若干増加している。また、多少値段が高くても品質の良いものが売れている。
		洋食食堂	年末のため売上げが増加している。ただし、昼時の客数は減少したままである。
		和食食堂	10月に新メニューを導入したことにより、売上げが今年に入ってやっと前年を上回ることができた。
		都市型ホテル	大人数はないが、少人数の忘年会がかなり入ってきており、宿泊も増加している。
		ゴルフ場	土・日・祭日の予約が好転しており、接待等の利用客が増加している。
		ゴルフ場	年末に向け忘年コンペ等人的の集まる機会が多くなる。
	企業関連	理・美容店	60歳代の客が多く、自分自身の生活を大切にしているようで、ゆとりを感じる。
		製造業（一般印刷業）	選挙やカレンダーの仕事があり、やや良くなっていると思われる。
		製造業（一般機械器具）	売上げ、利益とも伸びている。また、クリスマス商戦で市場が活気付いているように感じられる。
		非製造業（建設業）	受注量が増加した。しかしながら、利益率は相変わらず良くない。
	非製造業（建築設備業）	受注が増加している。	
	非製造業（輸送業）	貨物の入出庫について動きが良くなっている。一部貨物は減少傾向であるが、全体的に見ると在庫は増加している。ただし、下旬頃には相当量の出庫見込みがある。	
雇用関連	学校就業関係者	給料が下げ止まったように思われる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	商店街代表者	売上げ状況が例年と同程度で推移している。
		スーパー	客の1人当たりの買い物金額に従来と大きな変化はない。
		スーパー	引き続き客は単価の安い物を中心に買い回りをしている。
		スーパー	野菜や鶏卵の高騰はあるが、さほど財布のヒモをきつくしているようには思われない。しかしながら、買上点数は伸びていない。
		コンビニエンスストア	1人当たりの客単価は下落しているが、高価格の商品は売れている。ただし、客は余計な商品は購入しない傾向にある。
		農産物直売所	客は格安の商品を求めているようである。
		専門スーパー	生活必需品は従来通りに売れており、特に買い控えはないようだが、いわゆる衝動買いが見られない。
		都市型ホテル	忘新年会の予約状況が例年並みである。また、宿泊客についても特に目立った変動はない。
		旅行代理店	年末年始に休日が少なく動きがない。
		タクシー運転手	会社関係の接待での利用がない。また、駅での人の乗り降りが少ないため利用者が少ない。
		タクシー運転手	営業回数に変化がなく、会社関係の接待での利用も年末にかかわらず少ない。
		パチンコ店	年末年始を迎えるためか状況は厳しくなっている。しかしながら、ボーナスが出る月でもあるので月末に少しは期待が持てる。
		レジャー施設	客の利用金額等に変化がない。
		建築設計事務所	良い話が聞かれない。
	企業関連	農業関係者	友人や知人から建設関係の仕事がない、給与の支払が遅れているなどの話が聞かれる。
		製造業（食品）	年末のため3か月前と比べれば売上げは3倍になるが、前年比では変わらない。
		非製造業（建設業）	景気が良くなっているとの声が聞かれるが、建設業界は皆厳しい状況にある。
		非製造業（不動産業）	営業科目や場所により差はあるが、平均すると変わりはない。売買は減少、賃貸は横這いまたはプラスである。
	雇用関連	人材派遣業	相変わらず適材としての人材が不足しており、顧客先とのミスマッチが多発している。
		雇用相談員	雇用関係では、今後の景気の不透明さから人材派遣会社の利用が目立ち、本採用を控える傾向にある。また、輸出関連の大手機械、鉄鋼メーカー等は好調を維持しているが、中小の企業では原料高を価格に転嫁できない状況が続いている。
公共職業安定所		求人数が横這いで推移している。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	台風により野菜等の高値が続いた。また、ガソリンが高値で安定したため客の来店回数が減少しており、加えて客は必要なもの以外は購入していないように思われる。暖冬のため鍋物商材や関連商材も売れていない。
		家電販売店	暖冬により冬物商品が低迷している。また、PC等の単価がダウンしている。
		寿司店	客から収入が減った、ボーナスが大幅にダウンした、仕事が減った、仕事（土木建設業）が県内にないため他県に行っているなどの声が聞かれる。
		旅行代理店	売上げが前年を下回っている。海外旅行の落ち込みは少ないものの、国内旅行の客が減少している。
		タクシー運転手	特に夜間の電話の本数が減少している。
		タクシー運転手	売上げが減少している。また、飲食店等の廃業が目立つ。
		タクシー運転手	運転代行業の影響なのか、夜の電話による仕事が減少している。また、飲食店の客も少ない。
	企業関連	製造業（食品）	年末にもかかわらず商店街やデパートに活気がなく、普通の月と変わらない。
		製造業（食品）	原油が相変わらず高値のため石化製品や輸入原料のコストが上がっているとの話をよく耳にする。
		製造業（窯業・土石製品）	一部に災害復旧による隠れ需要は見受けられるが、全体的には公共投資が縮減されているため業績がなかなか向上しない。
		製造業（コンクリート製造業）	他地域の自然災害（台風、地震等）による国の補正予算の集中化及び市町村合併のため、各市町村の工事物件の発注が減少している。
		非製造業（建設業）	前年同期より受注が少ない。下請会社からも年々景気が悪くなっているとの声が聞かれる。
		雇用関連	求人広告
	悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド
ゲームセンター			取引先のショッピングセンターを中心に客数や客単価が著しく減少している。売上げ動向でも昨年実績を既存店ベースでクリアできていない店舗が少なく、また、販促やイベント等で集客を上げてコスト分の収益をカバーできていない。
企業関連		製造業（食品）	年末商品の動きが悪く、売上げが対前年比で大幅に減少している。
		非製造業（金融業）	公共事業が激減している。また、入札制度変更の影響も出ている。

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	都市型ホテル	忘年会のシーズンである。
	雇用関連	人材派遣業	例年忙しい時期である。
やや良くなっている	家計関連	家電販売店	DVD、液晶テレビ、乾燥洗濯機など、付加価値商品の需要が拡大している。
		和食レストラン	12月は忘年会の時期である。
悪くなっている	旅行代理店	客の動きが昨年と比べ良くなっていると思われる。また、数年ぶりの社員旅行を予定している企業が出てきている。	

回答区分	分野	業種・職種	理由	
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	忘年会等で多少なりとも動きがある。	
		ドライブイン	旅行客または個人客が増加している。買い物も少しずつ良くなってきている。	
		ゴルフ場	10月は大型台風直撃の影響で来場者数が前年比で大きく落ち込んだが、その後はゴルフのトップシーズンを迎え、特に11月は定休日なしのフル稼働が寄与して、来場者数が前年比で大きく増加した。	
		レジャー施設	宿泊施設や宴会場等を完備しているが、忘年会シーズンの予約状況が前年度を上回っている。また、飲酒運転の罰則が厳しくなったため、宿泊を伴う宴会が増加している。	
		建築設計事務所	企業関係の建設のための設計業務が増加している。	
	企業関連	製造業（食品）	製造、出荷とも順調に推移しており、年末商戦の波に乗ることができた感がある。	
		製造業（一般機械器具）	納期は短いもの見積りの依頼が増加している。	
		製造業（電気機械器具）	年末の駆け込み受注ということもあるのかもしれないが、新規受注等の話が出てきている。	
		非製造業（倉庫業）	人の動きが活発である。また、従業員の募集広告が頻繁に出ている。	
		非製造業（不動産業）	売買客が増加しており、契約件数も増加している。	
雇用関連	公共職業安定所	ほとんどの業種において求人数の増加が見られる。		
	学校就業関係者	求人数が昨年の同時期より増加している。		
変わらない	家計関連	商店街代表者	客から年末手当てが少なく野菜類も高値のため大変だとの声が多く聞かれる。	
		スーパー	営業活動を通じて、客単価が年々低下していることが感じられる。同業他社の情報からも、消費者の財布のヒモは依然として固いようであり、年末年始商戦が心配である。	
		スーパー	業界内の競争の激化と末端の消費者の購買意欲について、食品業界はそれほど大きく好転していない。むしろ客が上手に買い物をしているため、売る側にとっては大変厳しい状況である。	
		コンビニエンスストア	消費者の求める物が高品質の物や流行している物などに変化しているが、購買意欲に変化はないと思われる。	
		衣料品専門店	顧客の動向に変化がない。	
		ガソリンスタンド	暖冬により灯油の販売が振るわないが、全体的には通常通りのように感じられる。また、スタッドレスタイヤの販売が不振であるが、雪待ちの状況だと思われる。	
		洋食食堂	予約状態が良い。ただし、週末に集中している。	
		和食食堂	売上げが前年並みである。しかしながら、客数及び客単価が若干低下しているのが気になる。	
		タクシー運転手	乗車回数、乗車距離、客層ともあまり変化はなく、相変わらず低迷したままである。ただし、11月中旬頃から忘年会やボーナスの支給もあってか、わずかに夜の仕事が増加している。しかしながら、昼間の活気はもう一息である。	
		ドライブイン	台風や長雨の影響により野菜の市場価格が高騰したため、消費者の目が農産物直売所に向けられ売上げが増加したが、一時的なものと思われる。	
	ゴルフ場	集客に力を注いでいるものの、来場人数が上昇していない。		
	住宅販売会社	3か月前と比較して来場者数などに変化が見られず、客自身にも変化はないと思われる。		
	企業関連	製造業（食品）	原材料の値上がり分を製品価格に転嫁できない状態が続いている。	
		製造業（石材業）	3か月前との比較では変わらないが、例年と比較すれば良い状態である。県西の石材業は以前は加工卸業が主であったが現在は工事まで行う直売が主であるため、また、景気の良い地区まで営業しているためであると思われる。	
		製造業（印刷業）	年末特有の繁忙感がなくなっている。	
		非製造業（建設業）	工事は増加しているものの質や金額等が小さいため、人件費ばかりが先行している。	
	雇用関連	求人広告	求人企業数が変わらない。	
		求人開拓員	人件費の安い海外への進出が多く見られており、事業を縮小する企業と忙しい企業と様々である。	
	やや悪くなっている	家計関連	専門スーパー	暖冬で冬物商品が前年を大きく下回っている。
			都市型ホテル	出張者数が減少している。また、天候不順による生鮮食料品の値上げのため原価高となり利益が減少気味である。
ゲームセンター			路面店の売上げ及び来店客数が減少している。	
理・美容店			客の来店サイクルが長くなってきたように思われる。	
企業関連		理・美容店	寒さも厳しくなって、客の出足が鈍いようである。年間を通じて11月・12月は特に客足の遠のく月だが、前年に比べても今年は予想以上のマイナスであった。	
		農業関係者	野菜価格は上昇したものの、出荷量が減少したため収入が減少している。	
		製造業（印刷業）	どの業種においても相変わらず受注競争が激しく、時には原価を割って受注する物もある。売上げが前年比マイナスの状況下でこのような受注競争をしているため、利益率が低下するばかりである。	
		製造業（石材業）	見積り額を下げて欲しいと要求されることが段々多くなってきている。	
悪くなっている	家計関連	製造業（金属製品）	受注が減少している。また、値段が安い。	
		非製造業（広告業）	依然として価格競争が激しく、利益が薄い。客の取り合いも激しさを増している。	
	家計関連	農産物直売所	客は売価に敏感であり、なおかつ余計な商品は購入していないように思われる。	
		タクシー運転手	街に人がおらず、活気が感じられない。また、駅で待機しているものの自家用車での送迎が多い。	
企業関連	クリーニング店	暖冬のためオーバーなど冬物の必要がない状況である。		
企業関連	製造業（化学工業）	客の稼働率が低く、受注ベースではさらに10%近く落ちている。		

## 2 景気の先行き判断理由

### (1) 県北地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	ゴルフ場	良いところは良いなりに、また悪いところはそれなりに整理され、道筋がある程度見えてきたように思われる。世間一般にもそれが受け入れられているようであり、景気全体としては良い方向に向かうものと思われる。
		理・美容店	外出機会の増加による来店客数の増加に期待できる。
	企業関連	水産業関係者	海流に若干の変化(暖流の接近)が見られるためサバやイワシ漁に期待が持てる。また、小型船にあっては待望のシラスに期待できる。
変わらない	雇用関連	求人広告	雇用が増えれば個人消費も活発になると思われる。
	家計関連	商店街代表者	景気の回復材料が見当たらない。
		コンビニエンスストア	客の消費に影響を与える要因や経済政策が見込まれない。
		コンビニエンスストア	景気や客の心理を刺激するようなものが見当たらない。
		スーパー	良くなる要素が見当たらない。
		家電販売店	販売規制等がない限り今の状態が続くと思われる。
		自動車販売店	1月からの自動車リサイクル法の施行に伴い客の経費が増加することが予想されるため、今のところどうなるかはわからない。
		農産物直売所	購入客単価の変動が見込まれない。
		小売業(酒類)	大手企業の業績が回復しても、中小企業には反映しないと思われる。
		小売業(靴製品)	明るい話が聞かれないため、このままで推移すると思われる。
		居酒屋	3か月で景気が好転するとは考えられない。
		スナック	客から仕事がないとの声がよく聞かれる。
		居酒屋	企業のリストラが段々なくなると思われる。
		観光型ホテル	悪い材料も明るい材料も見当たらず、現在の低水準での景気が続くと思われる。
		観光型ホテル	予約状況から判断すると、変わらないと思われる。
		ドライブイン	大企業は上昇傾向にあるかもしれないが、小規模事業所は横這いまたは低下傾向にあるところが多い。
		レジャー施設	無料サービスのイベントの時は人出があるものの、通常営業では例年以上の人出が見込まれない。
		レジャー施設	低料金施設は前年とほぼ同数の利用が見込まれるが、特に高料金施設の利用は控えると思われる。
		理・美容店	仕事量に変化はないと思われる。どうやって客数を増やすか方法はいろいろ考えられるが、それにはスタッフが必要となる。
		クリーニング店	客数、客単価が横這いであり、3か月先も変わらないと思われる。
	住宅販売会社	際立った政策が施されるわけでもなく、変わらないと思われる。	
	企業関連	製造業(食品)	売上げ単価の下落は今後も続くと思われる。
		製造業(一般機械器具)	仕事量に変化はないと思われる。
		製造業(電気機械器具)	良い方へも悪い方へも大きな変動要因が見当たらない。
		製造業(電気機械器具)	業種によっては多少のバラツキがあるように感じられる。
		製造業(電気機械器具)	業績予想が伸びていない。
		製造業(電気機械器具)	今年度中は現在と同レベルで推移すると思われる。
非製造業(金融業)		年末は時期的にも様々な業種で売上げや受注が伸びるものあくまでスポットであり、年明け以降も継続する要素は見当たらない。	
雇用関連	人材派遣業	需要は多いものの供給が頭打ちのため、伸びにくいと思われる。	
	求人開拓員	景気の問題を出しても、来年も上昇が見込まれないとの返答が多い。	
	公共職業安定所	先行き不透明感はまだ残り、厳しい見方を崩せない。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	増税は景気に良い影響を与えない。消費税も含めて、今後に対する不安が景気に影響しそうである。
		ガソリンスタンド	景気は上向きと言われているが、地方の都市では消費人口の減少と買い控えにより販売業はダウン傾向にある。
		小売業(土産物)	客数の減少が予想される。
		観光型ホテル	売上げの増加が見込まれない。
		旅行代理店	1~3月の旅行の予約状況が前年と比較して良くない。また、旅行業界でも統合が多く価格の下落がまだ続いている状態である。
		タクシー運転手	例年1月と2月は利用客の動きが鈍く、売上げの増加は見込まれない。
		タクシー運転手	夜の運転代行車の利用客が増加しているためタクシーの利用客が減少している。年々減少しているため、先行きが不安である。
	ゲームセンター	今後の消費動向は一段と冷え込んでいくと思われる。	
	企業関連	製造業(電気機械器具)	例年2月頃から仕事量が少なくなり、4月頃にまた仕事が出てくる傾向にある。
		製造業(輸送用機械器具)	鋼材の逼迫によりカーメーカーの生産調整が始まっている。また、海外への作業シフト要請及び原材料の値上がり傾向は今後も続くと思われる。
非製造業(不動産業)		賞与支給時期にもかかわらず消費は動いておらず、市場が良くなる要因もまったく見当たらない。また、増税に対する不安や地元大手企業のリストラ対策・再実施計画の話を目にする。	
悪くなっている	家計関連	食堂	各地で台風や地震の被害が出ているため、景気は悪くなると思われる。
		タクシー運転手	地元大企業の関連企業から来年に対して良い話が聞かれない。
		タクシー運転手	自社の内情や社外の雰囲気から、不安を感じる。

## (2) 県央地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	職種	理由	
良くなって いる	企業関連	製造業(出版・印刷業)	年度末を迎えるため官公需や外郭団体等からの受注が活発になると思われる。ただし、単価の下落に伴う加工高の落ち込みは否めない。	
		製造業(一般機械器具)	大型物件の製品はリードタイムがある程度必要であるが、当社の製造能力は来年3月の決算月まで満杯の状態である。	
やや良くな っている	家計関連	コンビニエンスストア	ニーズに合った商売さえできれば景気は良い方向に向かうと思われる。ただし、減税の廃止がどのように影響するか不安である。	
		専門スーパー	建築資材等土木関係の動向が上向いている。農業関係においても土をいじる季節となり、また、暖冬のため屋外での作業が例年より早まると思われる。	
		タクシー運転手	年度末を控え景気の上昇を期待している利用客が多く見られる。	
	企業関連	製造業(食品)	季節的なこともあるが、2月～3月は梅祭りがあり観光客が大勢来るため、一時的に景気は良くなると思われる。	
		非製造業(建設業)	年度末へ向けて仕事量は増加すると思われる。	
変わらない	家計関連	非製造業(情報処理サービス)	顧客訪問時の商談内容からみて、景気はやや良くなると感じられる。	
		商店街代表者	現在の状況が予想以上に悪く、増税の動きもあるため景気が良くなると思われない。	
		百貨店, 総合スーパー	定率減税の縮小や年金保険料の引き上げなど、個人所得の増加が見込めない家計に与える影響は少なくない。将来不安に備えて貯蓄をした後の消費総額は限られており、多様化するマーケットの中からニーズに叶った物やサービスだけを厳選する消費者の目は、さらに厳しくなると思われる。	
		百貨店, 総合スーパー	市場全体に淘汰が進むもの、伸び続けるものと両極に明暗が分かれる気がする。これまで同様、個性的なものや付加価値の高いものには投資され、そうでないものは鈍い動きとなると思われる。	
		専門スーパー	消費者の生活の中でブームとなり得るものがない。また、税金や保険料等を考慮しても物の動きが大きく変わると思われない。	
		家電販売店	暖冬により暖房品はかなり厳しい影響を受けると思われるが、地上波デジタル放送(民放5社)もスタートするため、映像商品の伸びに期待できる。	
		自動車販売店	車の需要期を迎え忙しくなるだろうが、景気が良くなると思われない。	
		農産物直売所	例年冬場(1～2月)は客足が遠のくため、変化はないと思われる。	
		スーパー	買上点数が回復しておらず、今後も前年割れの状態が続くと思われる。	
		都市型ホテル	ボーナスの減少による消費の縮小が懸念される。	
		観光型ホテル	県内の個人・企業関係の予約が目立つ。県内観光地が見直されているのだろうか。水戸の観梅や周遊に期待している。	
		旅行代理店	団体客の増加が見込まれない。	
		タクシー運転手	リストラが続いているようであり、当分の間景気は変わらないと思われる。	
		タクシー運転手	景気が上向いているとの報道はあくまで大手企業の話であり、中小企業、零細企業にとっての景気はまだまだ苦しい状況のままだと思われる。	
		ドライブイン	予約状況から見ても良くなる要素が見当たらない。また、ガソリンが高値のため遠出する人が少なくなると思われる。	
		観光名所	新春のイベントや春の企画展など様々な企画で客を迎える季節となるが、同時に天候に左右されやすい時期でもある。長期予報では平年並みの予報であることから、景気も例年並みで推移すると思われる。	
		ゴルフ場	平日特別優待券制度により前年同期比較で来場者数の増加が見込まれるものの、シーズンオフに突入するため現在との比較ではそれほど伸びが見られない可能性もある。	
		レジャー施設	利用者から年間収入やボーナス等が大幅に減少したとの話が聞かれない。	
		理・美容店	入学式や卒業式などの行事があるため客数は増加すると思われるが、料金を下げた分以上の客数を確保しなければならない。	
		企業関連	製造業(一般機械器具)	これ以上は良くならないと思われる。今の好調を維持したい。
			非製造業(輸送業)	年度末であり貨物の動きは良くなると思われるものの、大きな期待は持てそうにない。高機能製品は増加する模様である。
			非製造業(広告代理業)	業績上昇の話はあくまで大手企業の話であり、中小企業の厳しさはまったく変わらないと思われる。
雇用関連	求人開拓員	原油高や鉄鋼関連の材料高もあり3か月で良くなると思われない。		
	公共職業安定所	有効求人倍率が改善基調にあり雇用情勢にも明るさが見られるが、30人以上の解雇(希望退職者の募集)が2件、その他事業縮小や事業廃止が28件あった。		
やや悪くな っている	家計関連	商店街代表者	年度末の需要期にあたるが、官公需も年々減少しておりあまり期待が持てない。	
		ファミリーレストラン	原油価格の高騰によるしわ寄せが表面化してきている。また、中国との関係悪化により仕入が困難な食材がある。さらに、物価の上げ止まり傾向により今まで食材等の価格を抑えてきた大企業が価格を上げる方向にある。	
		レストラン	ボーナスが前年よりかなり減ったとの話もあり、消費が縮小すると思われる。また、新年会等でも顔合わせ程度で食事を伴わない可能性がある。	
		都市型ホテル	直近の話題は耳にしても先の話題はほとんど聞くことがない。12月と比較すると鈍化すると思われる。	
		タクシー運転手	企業等ではタクシーを使わない方針がとられると思われる。また、マイカーでの送迎がますます多くなると思われる。	
		ゲームセンター	今年度前半は輸出を中心とした自動車関連企業が景気を引っ張ってきたが、国内販売の需要は縮小しており、円高による悪化も懸念されている。また、災害などの連続発生で風評的な被害が発生することが予想され、なんとなく遊んでいる場合ではないといった心理的作用が働くと思われる。	
		建築設計事務所	減税の廃止案や消費税率アップ等、消費者の購買意欲を削ぐ話題のために再び景気が後退することが懸念される。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	企業関連	非製造業（金融業）	ボーナス月の消費はそれなりだと思われるが、その後は現在論議中の税制改正等が消費者心理に影響を与えられると思われる。
悪くなっている	家計関連	スーパー	社会保険料の値上がりや増税の影響、支払給与の減少等が懸念される。
	企業関連	製造業（食品）	燃料等原油高に起因する原材料費の高騰が経営に悪影響を与えられる。また、円高ドル安や株安に伴う景気下降感により消費動向が低下傾向になるとと思われる。

(3) 鹿行地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	収入が増加したことで消費が拡大すると思われる。	
		スナック	企業の賞与が増額の見込みだとの話が聞かれる。	
		洋食食堂	季節的に売上げが見込める時期である。また、サイドメニュー(イベントメニュー)の充実を定期的に行う予定である。店側からのやる気をアピールしていきたい。	
		クリーニング店	製造業を主として良くなると思われる。建設業も住宅ローン減税の影響で上棟が多いようである。また、昨年はボーナスが出なかったが今年は少し出たとの音が聞かれる。	
変わらない	企業関連	製造業（金属製品）	輸出が順調であり、鉄鋼販売数量は高水準を維持すると見込まれる。	
		製造業（電気機械器具）	年度末は例年良くなる傾向にあり、年度予算を消化できそうである。ただし、税制改革による影響が懸念される。	
		非製造業（輸送業）	各メーカーともスケールメリットも含めて物流コストが最低限必要であることに理解を示してきている。物流コストで無駄な部分は何か、また、より利幅の大きい方法はないかを考えなければならない。	
		非製造業（保険業）	公共下水道の工事が多く出たため、建設会社についてはやや良くなると思われる。	
変わらない	家計関連	小売業（金物店）	公共工事、民間工事とも減少・縮小傾向にあり、資材の動きも低調で、良くなる材料が見当たらない。	
		商店街代表者	農家では収穫期の利益が少なかったため、消費の伸びはあまり期待できない。	
		商店街代表者	世界的に需要不足が続く限り、このままの状態で推移すると思われる。	
		スーパー	買い控えの傾向が続くと思われる。ただし、青果物や卵の相場が安定すれば景気は若干上向くと思われる。	
		自動車販売店	石油価格が高騰しているため、以前のようにユーザーも財布のヒモを締めてくるのが予想され、少しの間は現況のままで推移するのではないと思われる。	
		書店	客は必要な物や急ぎの物だけしか買わず、余分な物は買わない。	
		観光型ホテル	今後の予約状況が芳しくない。	
		サービス業	将来につながる開発に関する調査は、増減が見られない。	
		住宅販売会社	税制が変わり何らかの影響はあるかもしれないが、3か月では大きく変わることはないと思われる。	
		住宅販売会社	特に期待できる景気対策がない。	
		ドライブイン	景気が回復する兆しが見られず天候も安定していないため、変化は期待できない。	
		企業関連	農業関係者	例年3月頃は需要が低迷する。
			製造業（化学工業）	今が良すぎるため、これ以上は当分変わらないのではないと思われる。
			製造業（窯業・土石製品）	年明け以降の公共事業や民間事業の好転が見込まれず、同業他社との価格競争や原油高騰等による輸送コスト等の悪化はまだ続くと思われる。
製造業（食品）	原油価格の高騰による影響もあり、先行きが不透明である。			
製造業（飼料製造）	原油価格や海上運賃の上昇等の不安要因はあるものの、総じて原材料価格は安値で安定推移しており、現在の状況が当分は続くと思われる。			
非製造業（住宅設備施工業）	見積りがあまりないため変わらないと思われる。			
企業関連	非製造業（金融業）	ガソリン等石油製品の価格が高止まっており、将来の増税に対する不安感もあるため、好転は望めないと思われる。		
	非製造業（不動産業）	土地を購入したいという人及び企業はあるが、景気の動向がつかめず今一步踏み出せないようである。		
	雇用関連	人材派遣業	客先の採用動向から鑑みると変わらないと思われる。	
	民間職業紹介業	企業人事の動向から、求人数は多少増加すると思われるものの、求職者の選り好みや就職意識の低下等からベストマッチングの困難が予想される。		
	公共職業安定所	製造業では原油高、原料高を製品価格に転嫁できないため先行きは不透明とする企業が多い。建設業については公共事業の削減により業績回復は見込まれない。		
	やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	4～5か月前に一時明るい兆しがあったが、中小企業等ではまだまだ厳しい状況が続くと思われる。
			小売業（酒類）	増税のニュースがテレビや紙面等で噂される中、消費者の価値を感じる物には大金を投入してでも購入し、そうでない物には金をかけない傾向はさらに顕著になっていくと思われる。
			農産物直売所	増税により購買意欲が減退すると思われる。
専門スーパー			暖冬により消費はますます冷え込むと思われる。サービス業は逆に良くなるのではない。	
観光型ホテル			予約状況があまり良くない。	
小売業（菓子販売店）			新潟の地震や異常気象などの不安要素が客の消費意欲を削いでいるように感じられる。	
企業関連	製造業（化学工業）	タクシー運転手	客から増税等の話がよく聞かれるため、先行きの見通しは悪い。	
		理・美容店	客の多い年末に比べれば悪くなると思われる。	
		製造業（化学工業）	原料、資材の値上がりがさらに続くことが見込まれるため、当面はコストアップによる利幅縮小が予想される。	
		製造業（食品）	11月、12月の反動で荷動きが悪くなると思われる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	雇用関連	求人開拓員	石油及び原材料価格の一層の値上げが予想されるが、値上がり分を製品価格へ転嫁できないのではないかと心配である。
悪くなっている	家計関連	スーパー	原油高の影響や円高による製造業、輸出関連企業の業績悪化が懸念される。
		ゴルフ場	例年冬場は景気が悪くなる。
		日本料理店	希望を持ちたいが、予約状況も悪く頭が痛いところである。
		室内装飾業	周りを見ても家を建替える人がいない。分譲地はあるものの売れている様子もない。

(4) 県南地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	例年2月～3月はパンの売上げが増加する。	
		家電販売店	シングル需要等に期待が持てる。	
		小売業(各種食料品)	客数の増加傾向及び値段が高くても品質の良いものが売れる傾向は、今後も続くと思われる。	
		旅行代理店	万博等のイベントや旅行シーズンを迎えるため、期待が持てる。	
		ゴルフ場	前年に比べ予約状況が好転している。全体的にレジャー関連の支出が増加しているようであり、この傾向は今後も継続すると思われる。	
		理・美容店	後継者が接客及び技術の向上に大変な努力をしており、客からの評判も良く、先行きは明るい。	
変わらない	企業関連	製造業(食品)	新規の取引先が増えつつある。	
		非製造業(建築設備業)	見積り件数が増加している。	
	家計関連	スーパー	テレビや新聞等で先の経済状況をあまり良く言っていないため、多少なりとも防衛的な考え方をしている人がいるのではないかとと思われる。	
		スーパー	些細なことでイライラしたりクレームにつながるケースも多く、ゆとりを持っていない人が依然として多い状態であるが、この傾向が急に回復するとは思われない。	
		コンビニエンスストア	客が必要な商品しか購入しない傾向は続くと思われる。家計所得が増加するか、政府が景気刺激策を行わない限り、客の購買意欲に変化はないだろう。	
		衣料品・身の回り品販売店	売上げに変化はないと思われる。	
		農産物直売所	直売所は天候に大きく左右される傾向にあるが、今冬は暖冬の予想で野菜の生育が良く価格が安くなる可能性が大きいので、売上げの大幅なアップは望めない。	
		農産物直売所	少しでも貯蓄をしたいと考えている人が多いので、消費に回らないのではないかとと思われる。	
		専門スーパー	状況は良くないと思われるが、入社や入学の時期のためある程度の消費は期待できる。	
		洋食食堂	相変わらず商店街の人通りは少なく、また(土地利用の)駐車場化が目立ち、ビルも空室のままのところが多いように思われる。	
		都市型ホテル	新年会の予約は入ってきているが2月・3月の宴会が伸び悩んでいる。宿泊の予約も横這いである。	
		旅行代理店	変わらないと思われるが、雪不足と新潟県中越地震の影響が心配である。	
		タクシー運転手	今月は忘年会や新年会シーズンのため少しは動きがあると思われるが、その後の景気動向についてはあまり良くなると思われない。	
		パチンコ店	例年2月を過ぎた頃に状況が変わってくるので期待したいが、実際はあまり変わらないと思われる。	
		レジャー施設	3か月では変化は見込めない。また、いろいろと努力している企業とそうでない企業で差が出てくると思われる。	
		建築設計事務所	計画段階で融資に行き詰まっている。	
		企業関連	農業関係者	農村社会のためIT、電気、自動車等の業種に従事する人も少なく、景気が良くなるという話は聞こえてこない。また、本年の米価格安から土地改良費の償還などの延滞が通常の2倍以上との話も聞かれる。
			製造業(食品)	前年同月と同程度の売上げが見込まれる。
			製造業(コンクリート製造業)	公共工事の減少傾向は今後も続くと思われる。
			製造業(一般機械器具)	円高による輸出関連企業の収益率の悪化が予想される。また、定率減税廃止による影響も出てくると思われる。
雇用関連	雇用相談員	原油高が企業全体にとってマイナス要因となっはいるが、現在の状況が急に悪化しないしは改善すると思われない。		
	求人広告	期末に向かって採用を控える会社が増えてくるのが予想される。		
	公共職業安定所	求人数が現在と同程度で推移すると思われる。		
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	定率減税の廃止報道やビールの実質上の値上げ等、景気の悪くなる要因が多い。	
		スーパー	ビールと発泡酒の値上がりによる影響が懸念される。	
		都市型ホテル	円高・ドル安で米国の影響を受けることが予想されるため、今後の個人消費には期待が持てない。	
		タクシー運転手	労働者の賃金の上昇が見込まれない。	
		タクシー運転手	客から景気の悪い話は出ても、良くなるという話は出ない。	
		ゲームセンター	判断が難しいが、消費する内容が変わってきていることは事実であり、客単価の低下が一層進むと思われる。	
		企業関連	製造業(窯業・土石製品)	所得税、住民税の定率減税縮小の報道を受け、財布のヒモが締まると思われる。また、ガソリンの高値や介護保険の負担増等による心理的影響は避けられないと思われる。
非製造業(建設業)	受注の見通しがあまり立たない。			
非製造業(建設業)	見通しが立たず、不安である。本当に仕事が少なくなっている。			
非製造業(輸送業)	在庫が減少すると思われる。新規荷主開拓が必要であり、また保管管理能力や情報収集が問われる時代に変化しつつある。			

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	企業関連	非製造業（不動産業）	都心回帰で首都圏に人が集まり、地方の若い人が減少すると思われる。
		非製造業（金融業）	都市型企業とそれ以外の企業の格差が広がっていくと思われる。
	雇用関連	人材派遣業	顧客先の一部で業務縮小に伴う人員減の公算が高くなっている。一時的なブームがあっても、ブームが去ると落ち込みが著しい。
悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	倒産するガソリンスタンドが出てくるかもしれない、この業界にもとうとう淘汰の時代がきたように思われる。
	企業関連	製造業（食品）	客単価が低下しており、売上高の減少が見込まれる。

(5) 県西地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	自動車、鉄鋼、家電業界、海運業などの好況が消費にどのようにプラスに働くかは不明であるが、今後の経済にはプラスになると思われる。	
		都市型ホテル	卒業、入学や各企業、官公庁等の人事異動による歓送迎会等の需要が見込まれる。	
		タクシー運転手	人事異動の時期であるため多少ながら上向くことが予想される。	
		ドライブイン	暖かい冬であれば遊びに来る人や旅行をする人が増加すると思われる。	
		ゴルフ場	これからシーズンオフに向かうが、新年の予約も順調に入っており、天候さえ良ければ来場者数を確保できると思われる。	
		レジャー施設	1月～3月にかけては連休が多くなる時期であり、サービス業としては期待が持てる。特に温泉関係は利用者が多いシーズンとなる。	
	企業関連	製造業（食品）	新製品開発に力を入れており、年初の商品展示会で平成17年の動向を窺おうとしている。	
		製造業（石材業）	石材業界にとって3月は忙しい時期である。	
		製造業（一般機械器具）	仕事を下請けに出しても、忙しいためすぐにできないようになってきている。	
		非製造業（不動産業）	売買客の増加が見込まれる。また、広告掲出物件についての問合せ件数等も増加傾向にある。	
	雇用関連	学校就業関係者	機械設備の導入を検討しているところが何社かある。	
	変わらない	家計関連	商店街代表者	テレビ等での報道の影響で客の購買意欲が出ないのではないかとと思われる。
			スーパー	人事採用をしていて、新卒採用、中途採用ともに求職者数が減少しており、求職者の質も低下していると感じる。有効求人倍率や完全失業率は回復傾向にあるようだが、中小企業にはその恩恵はめぐってきていない。
			コンビニエンスストア	売れる物は瞬時に売れ、売れない物はまったく売れないという両極化が進むと思われる。
			家電販売店	季節による変動が大きく、回りや情報にも左右されやすい市場であるため先行は不透明であるが、特に大きく上昇するとは思われない。
			農産物直売所	冬のボーナスの支給状況に大きく左右されると思われるが、消費については大きな変化は見込まれない。
			専門スーパー	このまま暖冬が続くと、あまり良くない状態のまま推移すると思われる。
			和食レストラン	景気は回復しているとの報道があるが、都心から少し離れた当地域ではあまり実感が湧かない。回復までにはあと三年くらいかかるのではないかとと思われる。
			タクシー運転手	客の話聞いても景気が上向くとは思われない。
タクシー運転手			年度末ではあるが、変わらないと思われる。	
タクシー運転手			ここ数年の売上げ状況から鑑みて、それほど変わらないと思われる。	
ドライブイン			冬場は売上げが落ち込む時期であり、昨年並みで推移すると思われる。	
ゴルフ場			売店等での客の金の使い方を見ても、景気は変わらないと思われる。	
理・美容店			イベント等を開催しても人が集まるのはその時だけで、すぐに人通りがなくなってしまふ。また、人口の増加も見込まれない。	
建築設計事務所			長期的な大規模の業務が少ない。	
企業関連			農業関係者	生産物の販売が始まる来年4月までは期待できない。
			農業関係者	野菜の不作で価格が上昇すると、生活費の支出を抑えてくると思われる。
			製造業（石材業）	県西地区の石材業の廃業、リストラも底をついたように思われる。
			製造業（化学工業）	現在が底という見方もあるが、これから上向くと言う客も少ない。
			製造業（電気機械器具）	例年並みで推移すると思われる。
非製造業（倉庫業）	個人消費が伸び悩むと思われる。			
雇用関連	公共職業安定所	依然として先行きは不透明であり、各企業ともコストの削減に躍起になっている。		
やや悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	近隣地区でガソリンの超安値が出たため、こちらの地区にも影響が出そうである。また、客先の飲食店が2軒閉店になるとのことであり、競争の厳しさが感じられる。	
		和食食堂	消費金額が若干減少すると思われる。	
		都市型ホテル	業種別に勝ち組、負け組がはっきりと分かれてきている。また、円高、原油高のため各企業ともかなりシビアになってきている。	
	企業関連	製造業（金属製品）	今後の仕事の予定があまりない。	
		製造業（印刷業）	年度末の仕事の問合せが例年より減少している。	
	雇用関連	人材派遣業	業種にもよるが、正月が過ぎると暇になる会社が多いようである。	
悪くなっている	家計関連	求人広告	どの企業もできる限り賃金を抑えているため、仕事量が増加しても、賃金が伴わないと思われる。	
		理・美容店	アウトサイダー的な店が地元にも隣町にも多くなり、今後ますます厳しくなることが予想される。	
		クリーニング店	単価の高い冬物が出てこないため、売上げが減少すると思われる。	

### 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	マンションの建設が増加している。それに伴う市街地居住者の増加と販売意欲の向上に期待したい。
	スーパー	卵価格の高騰で普通の卵とこだわりの卵との価格差が縮小しているため、通常よりも若干値段の高い卵が売れている。
	スーパー	年末、クリスマス、正月のための買い物を見ても高額な物は買い控えているようである。ギフトや手土産用品についても低額なものに乗り換えている。
	家電販売店	地元の客の買い物の範囲が水戸方面にまで広がっているようだ。
	農産物直売所	野菜の価格が安定すれば大型店で他の品物と一緒に購入することが多くなると思われる。
	ガソリンスタンド	大型店舗と小店舗の差が開いてきている。
	小売業（酒類）	平成17年1月からビールの価格が上がり、スーパーやディスカウント店との価格差が縮小するため、期待している。
	小売業（土産物）	増税の動きもあり、客は必要な物しか購入せず、先行きが不安である
	小売業（靴製品）	客は品物を見るもののなかなか購入しない。また、風邪をひいている人が少ないようで、薬局の関連商品が売れていないようである。
	レストラン	客はまだ安物に飛びついており、良い物を買うまでには至っていないように感じられる。
	居酒屋	不景気が続くなかで今年こそ底を打つと思いつつ一年が過ぎた。来年度は景気回復を願うばかりである。
	食堂	駅前商店街に多くの空き店舗が見られ、とても寂しい。
	観光型ホテル	今の日本は「強者の理論」で動いており、「景気を良くする」の大義名分のもとに弱者を苦しめている以上、今しばらくは消費が冷え込んだままで景気は回復しないと思われる。
	旅行代理店	新潟中越地震の影響でキャンセル等が発生したが、その分の振替として他の旅行が増加しているわけでもない。
	タクシー運転手	深夜の利用客が少ない。
	タクシー運転手	12月に入っても忘年会や飲食店等の仕事がなく、本当に師走に入ったのかと思うほど暇である。
	タクシー運転手	景気が良くなっているとの報道があるが、よほど良ならない限りタクシーの利用には結びつかないと思われる。
	ゴルフ場	市町村合併等々世の中の仕組みも変わりだしており、それらが今後の向上要因になれば、今とは異なった現象が出てくるのではないかと思われる。
	レジャー施設	地元大企業のボーナス支給日にも飲食店には空席があり、スーパーの店頭では食料品を中心に欠品している棚が目立っていた。
	レジャー施設	今冬も暖冬のため前年並みに期待していたが、冬季ボーナス支給後もまったく利用客が増加しない。明るい話題も聞かれず、増税など国民が犠牲になる政策ばかりが報道されているため、ますます利用単価が減少するのではないかと心配である。
理・美容店	近隣の工場がなかなか元氣にならない。一部の工場では閉鎖も噂されている。	
理・美容店	駅前広場で種々のイベントが実施されているが、主催者と関係者のみの参加のように映る。回数は若干減少しても大規模なものにして集客力の向上を計ってほしい。	
クリーニング店	家電量販店の新規出店が多い。	
住宅販売会社	こだわりのある客が増えてきたように思われる。予算は厳しくともこだわりの部分には金を出す傾向が見られる。	
企業関連	水産業関係者	金融機関の貸し渋りのため漁業者は漁網等必要不可欠なものへの投資ができずにいる。乗船員の給与等にも影響が出ており、不景気の大きな要因のひとつとなっている。
	製造業（食品）	原油価格の高騰により資材の値上げが相次ぐ一方、製品価格は下落傾向にあるため、採算がとれなくなっている。
	製造業（一般機械器具）	レストランや商店街にあまり人が入っていないようである。
	製造業（電気機械器具）	経費節減のため、年始の挨拶回りで配るタオルを100円ショップの文具に変更した。
	製造業（電気機械器具）	少量生産品の納期が短い付加価値が少ない。また、ボーナス商戦が開催されているが購買意欲はさほど感じられない。
	製造業（電気機械器具）	開発への取組みが活発化してきているように感じられる。
	非製造業（建設業）	分譲マンションの建設が多く見られる。需要もあり売れているようだ。
	非製造業（建設業）	市町村合併とともに地方からの移動が見られており、12月ということもあるのだろうが人の動きはあるように感じられる。
非製造業（不動産業）	売れ筋の商品と売れない商品とで、勝ち負けの二極化がさらに進んでいる。	
雇用関連	求人開拓員	地元大企業の電子機器等の工場では、ラインがフル稼働のため派遣社員の募集を増やしている。ただし派遣での対応であるため、一時的なものなのか継続的なものなのかは不明である。
	公共職業安定所	主要産業で受注量の減少、製品価格の下落不調、消費の低迷が続いている。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	県南に注目が集まっているようであり、大手メーカーなどは県北の営業員を減らし県南を増員するなどしている。また、一時的なことで市町村合併に伴う特需の話が聞かれるが、合併後はさらに厳しくなるのではないかと危惧している。
	商店街代表者	大店法の規制廃止により、増床や郊外型のショッピングモール建設の話があちこちで聞かれる。これからの少子高齢化の時代には商店街が必要であるのに、その前に街が崩壊してしまう。
	百貨店、総合スーパー	女性の消費行動が個人消費全体に与える影響は大きい。
	百貨店、総合スーパー	同業種の閉店のニュースが次々に伝えられている中で、ますます当社に対する客の要望が高レベルなものになってきている。商品の品質はもちろんのこと、接客マナー・態度に対するクレームや要望も都内百貨店と比較され、当社がまだそのレベルに達していないことを痛感させられることが多くなった。
	スーパー	卵等の単一商品の高値にもかかわらず、必需品ということで買上点数が落ちていない。
	スーパー	企業のロイヤリティについて、その差はさらに拡大していくと思われる。
	スーパー	客は必要なものを必要な量だけ購入する傾向にあり、安いからといって買い込むようなことはあまりしない。
	コンビニエンスストア	客の目は厳しく、いらぬもの、ニーズに合わないものは購入しない。おすすめや試食を実施して初めて購入する客も多く見られる。
	専門スーパー	客自身の生活に直結する商品に関しては見る目が厳しく、質問も多い。必要であれば高額の商品でも購入しており、逆に安いからといってまとめ買いをすることはほとんどない。
	自動車販売店	ガソリン価格の値上げにより燃費の良い車やコンパクトカーを求める客が増加している。また、ボーナス払いの時の金額を考える客も多く見られる。
	スーパー	依然として客は買い回りをする傾向にあり、安い商品を目当てに店を選んでいる。
	都市型ホテル	結婚式が少人数化しており、親族を中心とした披露宴が増加している。
	観光型ホテル	法事や小宴の昼夕食が増加傾向にある。また、納豆や餅製品など県産品の評判は根強い。
	旅行代理店	旅行会社にとって円高は好都合であるが、他の業種にとってもそうであるかは疑問である。
	タクシー運転手	企業、個人とも自己防衛手段を強化している。出張のサラリーマンはレンタカーを利用することが多く、各家庭でもマイカーでの送迎が目立つ。
	タクシー運転手	市内に複数のタクシー会社が進出したため、今後は営業競争が激化すると思われる。
	観光名所	台風、地震と天災が続いており、客も心理的に金を使う気分になれないのではないかとと思われる。実際、特別な場合を除いて高額商品の動きは鈍くなっている。
	ゴルフ場	ラウンド終了後にパーティーをする団体が減少している。また、プレーヤーの帰宅時間が早くなってきている。
	ゲームセンター	家電量販店が相次いでオープンしている。既存店との競争が激しくなるため、今後の展開に興味がある。また、来年の赤塚駅前開発、水戸駅南再開発、内原へのイオンモールの出店等で、水戸駅北口がますます窮地に追いやられそうである。
	レジャー施設	キャラクター商品のパリエーションを増やしているが期待したほどの効果が出ていない。
理・美容店	広告やチラシの宣伝効果は大きく、新規の客が増加している。さらに努力していきたい。	
理・美容店	古くからの店が閉店している。自分もいつ閉めるかと考えてしまう。	
建築設計事務所	大企業の好況はリストラ等痛みを伴ったものであるし、また地方の中小企業においてはまだまだ景気が上向いているとは思われない。	
企業関連	製造業（出版・印刷業）	早期に官公需の契約形態を物品売買から製造請負に変更してほしい。さもなくば底のない値引き競争により業界が自滅してしまう恐れがある。
	製造業（土石製品）	一部高級品が売れるようになってきた。
	製造業（金属製品）	最近の高い物が売れていると言われるが、地方では感じられない。
	製造業（一般機械器具）	価格よりも来年の3月決算までに納入してくれるなら発注するという客もあり、ありがたくも対応に苦慮している。
	非製造業（建設業）	勝ち組・負け組がより一層明確に分かれてきているように感じられる。
	非製造業（輸送業）	デパートに行くと、年末の休日にもかかわらず衣料品売場が閑散としている。セールをやらないと購買意欲が刺激されないのではないかと。
	非製造業（金融業）	店内の改装、新規出店等の融資案件が9月以降皆無に等しい。
	非製造業（広告代理業）	他県にあるような魅力的な商業施設がない。
	非製造業（コンサルタント業）	若い人々が街中で起業するケースが増加している。
	非製造業（情報処理サービス）	即戦力になる有能な人材を確保することが難しくなっている。それとは逆に、顧客からは派遣の引合いが増加している。
雇用関連	求人開拓員	コンピュータの情報処理や介護員を必要とする企業は人手不足の状態である。特に情報処理ではスキルのある即戦力を求めているが、慢性的に技術者が不足しているようである。
	求人広告	企業からのお歳暮の売り込みが以前にも増して熱心になっている。売れないため大変なようだ。
	公共職業安定所	介護保険法による特別養護老人ホームや介護施設の進出で介護職や看護師等の求人が多い。また、製造業等では中国等海外での生産や請負等アウトソーシングが増加しており、事業所側のコスト意識の高さが窺える。
	学校就業担当者	学生の生活が大変で、コンビニで深夜のアルバイトをしているという女子学生が増加している。

## (3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	小売業（金物店）	客の世代交代が、従来の中高年齢層が激減している。新規顧客の増加も見込まれず、先行きが不安である。
	商店街代表者	全国的に鉄鋼関係の業種等が非常に伸びているが、地方においては全般的に特徴的な動きは見られない。
	商店街代表者	地域的に工場と住まいが隣接しているため、最近は地元で外食を済ませることが多くなってきた。
	商店街代表者	大企業の動きは大変盛況のようだが、その反面中小企業の立ち直しにはまだ時間がかかると思われる。
	スーパー	ジュースについているボトルキャップなど、おまけがついているキャンペーン商品がよく売れている。
	スーパー	相変わらず健康ブームは続いており、テレビの放送後には商品が欠品してしまう。
	小売業（酒類）	酒の販売に関して、忘年会シーズンではあるが近隣の旅館、ホテル、居酒屋からの大量注文は以前と比べてそれほど増加していない。ギフトに関しても年末年始が書き入れ時だが、昨年と比べてあまり動きが良くない。
	コンビニエンスストア	単価の高い商品でも価値のあるものは売れている。
	農産物直売所	贈答品の金額は確実に減少している。
	専門スーパー	知り合いに新車を購入する人が増加したように思われるが、一般家庭で新車を購入すれば他の支出を切り詰めようとするため、人の目につきにくいインテリアや下着等はますます単価が下がり、売上げが減少すると思われる。
	小売業（薬品店）	大型ドラッグストアの出店も出尽くしたようであるが、季節商品の動きが悪く大型店もかなり厳しいようである。また、客は時間があるためにちょっとした不調でも医療機関に行ってしまう。
	書店	大型店は飽和状態にある。規制をして出店を止める方法はないものか。
	スナック	地元大企業はかなり好調のようである。
	小売業（菓子販売店）	町内にあったスーパーが郊外に移転した。旧商店街は午後6時を過ぎると人影もまばらな状態である。
	タクシー運転手	ガソリンの価格が高騰したためか、車の通行料が少ないように感じられる。また、忘年会でも行き帰りのタクシー利用が減少している。
	観光名所職員	売上げの減少の原因がわからない。どのようなところに人が集まっているのかと考えてしまう。
	洋食食堂	ランチタイムはある程度売上げを確保できているものの、ディナータイムの来客数が少ない。また、新メニューを導入したが、単価の高いもの（高品質で美味しいもの）も支持を得られている。
	割烹料理店	サッカー観戦関連の来客が少ない。
	日本料理店	外食大手の企業の出店が多く、個人経営の店の客が吸い取られる傾向にあり、地元産業の景気は悪くなる一方である。
	理・美容店	客の来店サイクルがだいたい決まってきた。
	クリーニング店	年末のためいつもよりは少し活気付いている。また、忘年会等で酒を飲む機会が増えるため、運転代行業者は忙しいようだ。
サービス業	海外からの素材調達品、輸出用製品の性能確認試験が最近目立っており、流通のグローバル化が感じられる。	
ドライブイン	米が豊作だったため、安定した販売を継続できている。	
企業関連	製造業（食品）	コイヘルペスウィルス病の影響がまだ尾を引いている。
	製造業（化学工業）	ガソリン代が段々高くなっているのが気にかかる。これ以上高くなるのかと思うと不安である。
	製造業（電気機械器具）	最近ビルや社宅の外観補修（塗装等）を行っている会社が多く見られるが、コスト削減の対象であった福利厚生関係にも金が回り始めたためであると思われる。
	製造業（飼料製造）	国のBSE対応の一環として来年の4月から牛用製品とその他用製品の製造ラインの分離が義務付けられることから、現在各社とも工程分離工事や分業化のための設備投資を行っている。安心・安全のための投資は売価に転嫁できないため、資金回収のための販売競争が熾烈化することが懸念される。
	製造業（化学工業）	原料不足による生産調整と値上げ交渉の話をよく耳にするようになった。
	非製造業（住宅設備施工業）	大工の忘年会も控えめで少なくなった。
	非製造業（輸送業）	アルカリイオン水やアパレル関係、低価格・高品質の果物包装材など、今まで注目してこなかったものが物流する時代になってきている。健康増進・維持や環境にやさしい製品の開発はこれからますます盛んになってくると思われるが、物流業界としてはこれらにどう対処していくべきか考えなければならない。
	非製造業（金融業）	御歳暮の時期にもかかわらず、今ひとつ活気がない。
	非製造業（保険業）	ガソリンスタンドやガスの販売店はガスの卸値の上昇で利益が減少しているようである。近々新規店舗の進出もあるため、売値の下落も心配しているようだ。
	雇用関連	人材派遣業
民間職業紹介業		年代や職種を問わず求職者の申込件数が少ない状況であり、人材不足に悩んでいる。
学校就業関係者		初めて求人を出した企業が複数あった。
求人開拓員		若年者を育成する余裕がないためか、求人の内容を経験者や有資格者に限定する企業や、単純作業には派遣や請負で対応する企業の割合が増加している。

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	スーパー	自地域にやたらと中国系の外国人が増加しており、客単価が低下している。また、万引き等が増加傾向にあるが、自地域の景気があまり良くないことの現われではないかと思われる。
	スーパー	卵、野菜と高値が続き、利益の確保が難しい。
	スーパー	伸び餅の価格についての問合せが多い。売値に敏感な状態が続いており、年末商戦は良い悪いがはっきり出そうである。
	コンビニエンスストア	正月気分がないからなのか、メールなどの通信手段が発達したからなのか理由はわからないが、官製年賀はがきの売上げが昨年に比べて落ちている。
	家電販売店	以前と比較しても購入に至るまでの客の決断が遅い。
	自動車販売店	20～30代に車の購入意欲が見られる。
	農産物直売所	最近千円札や小銭で支払をする客が多く見られるようになった。
	農産物直売所	スーパーなども朝市の開催等いろいろな方法で客に呼びかけているようである。
	専門スーパー	12月前半の売上げのピークは例年だと第2土曜日なのだが、今年は第3日曜日であった。ボーナスの関係だとは思われるが、今後どのような影響が出るか心配である。
	ガソリンスタンド	つくばエクスプレスが来年秋に開通するが、つくば市が空洞化してしまうことが懸念される。
	洋食食堂	インターネットオークション等の価格の低さには驚かされる。近隣の量販店の半値ほどで手に入れられる時もある。また、店に送られてくる食材や食器などのカタログを見ても以前より値引率がいいようであるし、近頃では酒蔵からの直通の電話もかなり増えてきている。
	和食食堂	つくばエクスプレスの開通を控え、道路状況の変化や新店舗（競合店）の出店等の動きが見られる。
	都市型ホテル	暖冬のため冬物衣料の売上げが伸びない、各レストランでも鍋の出品数が少ないなど、気温により影響を受けているところもあるようである。
	旅行代理店	暖冬になるとスキーツアーが売れなくなる。冬は寒くなることが望ましい。
	タクシー運転手	運転代行の車両が多く見られる。
	タクシー運転手	病院の患者の送迎についてもタクシーではなくバスやマイカーの利用が多い。
	タクシー運転手	駅へのマイカーによる送迎が多い。
	タクシー運転手	土地の売買等に少しずつ動きが見られる。建築関係も少しずつではあるが受注があるようだ。
	タクシー運転手	忘年会のシーズンだが店の車での送迎や運転代行の利用が多く、タクシーを利用する人は少ない。忘年会の数自体も少ないようである。
	企業関連	ゴルフ場
パチンコ店		新6号バイパスやつくばエクスプレスの開通により、人の動きが変わると思われる。
ゲームセンター		客数の減少よりも客単価の低下が大きい。
レジャー施設		県南地区にはかなり大型店舗が増え活気付いているように思われるが、どの店舗も価格競争を行って集客をしているため景気が良いとは考え難い。
理・美容店		ディスカウントショップではヘアケア用品が山積みになっているが、専門店として一人一人にアドバイスやカウンセリングをしながら商品を販売しているため高額の商品でも売れている。
建築設計事務所		相変わらず住宅メーカーやチェーン店による増新築が多い。
農業関係者		三位一体の改革の中で農村は見放されてしまうのではとの危惧がある。担い手の偏重から農村・農業がどうなってしまうのかといった不安感やあきらめが支配的になりつつある。
製造業（食品）		主力取引先の売上前年比は微減で推移しているが、新規取引の動きがある。
製造業（食品）		つくばエクスプレス開通を前にして周辺工事が活発化している。
製造業（食品）		同業他社を含め業界全体が売上げを大幅に落としてしている。商業組合の破綻等もあり、今後に明るさが見られない。
製造業（食品）		人通りが少なく、景気が良い話が聞かれない。
製造業（食品）		原油価格の高騰による輸送コスト増と中国経済の急伸で国内市場に影響が出始めており、材料や化学製品の値上げの相談が増加している。
製造業（窯業・土石製品）	遊休資産の有効活用のため社宅用地の売却及び跡地の賃貸を進めているが、聞くところによると30代前半向けの戸建住宅はわりとよいようである。ただし、価額が低いと利幅はあまりないとのことである。	
製造業（コンクリート製造業）	ある金融機関の取引先が財務内容の悪化により倒産した。	
非製造業（建設業）	企業の設備投資の依頼もそれほど多くなく、来年度の予定が立たない。設備投資が活発化していると言われてはいるが、一部上場企業ですら100万円単位の工事も出ていない。	
非製造業（建設業）	近隣の企業も上向傾向であるようだ。	
非製造業（建設業）	投資の案内など、何とかごまかして儲けようとする電話が毎日のようにある。また、価格の安い店や100円ショップ等がとてめ繁盛している。	
非製造業（金融業）	私立の中学校・高校への入学者が地域全体で減少傾向にある。	
雇用関連	人材派遣業	全体的に派遣期間が短くなってきている。各企業も長期的な展望ができないのではないかと思われる。
	雇用相談員	建設関係では個人住宅の低迷が続いている、運輸関係では荷動きが増加してきているが、燃料価格の高騰により収益が圧迫されている状態が続いている。
	求人広告	サービス業の求人広告掲載が減少している。また、例年より広告を少なくしようとしている会社が多数ある。
	学校就業関係者	県内の最低賃金が数年ぶりに上昇した。また、飲食店はそれなりに混んでいるようである。

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	年末年始を迎えるにあたり多少町内の動きも活発になってきているが、消費につながってほしい。また、野菜が安くなってきたため鍋物の商品が売れてきているようである。
	スーパー	最近デジタルカメラを購入したが、友人にも購入している人が多いようである。
	コンビニエンスストア	良い物は高額でも売れている。また、衝動買いをする人が増加している。
	家電販売店	娯楽や趣味への執着が大きいと感じられる。
	農産物直売所	日々の来店者数にバラツキが見られるが、各量販店等のチラシを見て特売品を追っているのだと思われる。
	専門スーパー	原油価格高騰の影響でいろいろなものがコスト高となりつつあり、利益的に厳しくなっている。
	ガソリンスタンド	国道沿いに大型の店ができた。今後ますます市の中心部から郊外への人の流出が加速すると思われる。
	洋食食堂	景気が良くなったとの報道があるが、どこか不安が残る。地元の合併に関しても水道料金が値上げされる等々不安に思っている人が見受けられる。一方、農家では出荷価格の値上がりで収入が増加しているようである。
	和食食堂	宴会や忘年会が例年に比べて減少している。新年会、忘年会どちらかのみに行っている会社が目立つ。
	和食レストラン	同業店を見ると、低価格の店は客が常にいっぱいであるが、高額単価の店は週末の利用はあるものの平日夜の客数が増えていかない状況である。客も店を使い分けているようである。
	都市型ホテル	近隣の空き店舗に新しい企業が進出し、ごくわずかではあるが人の流れがある。
	都市型ホテル	ボーナスの支給がない会社が多いとの話が聞かれる。各家庭でも教育費等の負担が重く、その分他のものを節約して家計を保っているようである。また、中国等へのシフトのため雇用に不安を感じている人が多く見受けられる。
	旅行代理店	旅行業としては単価の問題もあり景気が良いとは言えないが、客からは景気が良いとの話が聞かれる。
	タクシー運転手	景気低迷が長期化しているため、先が見えない。生活に危機感を感じている。
	タクシー運転手	駅前に図書館等が入った大規模施設ができ、小・中・高生等の出入りが多く見られる。
	タクシー運転手	ボーナスが増えたという話が聞かれず、企業に活気が出てきたという声も聞かれない。また年末なのに街中の商店にも活気が感じられない。しかしながら、なぜかはわからないが夜の仕事だけは思った以上に増えているように感じられる。
	ドライブイン	定率減税の縮小・廃止等、増税が見込まれる状況であり、個人消費の伸びは期待できない。
	ドライブイン	以前より財布のヒモがやわらかくなってきたように思われる。
	レジャー施設	県西地域は来年秋に開通するつくばエクスプレスに大きな期待を寄せており、商業施設や住宅地なども誘致や建設が進んでいる。茨城県民は東京に気軽に行ける環境になるが、一方で東京都民が茨城に魅力を感じるかは疑問が残る。
	理・美容店	特に美容室の出店が多いように感じられる。
理・美容店	こここのところ大変忙しく、土曜日を返上し残業を一杯やっても間に合わない状態だとの声が製造業関係者からよく聞かれる。	
クリーニング店	アウトサイダーの店がチラシをまめに出示しており、今月には新しく1店舗店を出した。負けてられない。	
建築設計事務所	新潟県中越地震があったことで、近隣企業の耐震補強の意識が強くなり、専門技術者への相談・依頼が増加してきた。必要なことに予算をとり実行に移ろうとする意識が窺える。	
企業関連	農業関係者	従来この時期は忘年会等の予定があるのだが、年々回数が減っている。
	農業関係者	農業者への支援が減少している。
	製造業（食品）	年末のあいさつ回りでカレンダーを持ってくる業者が年々減少しているが、これもある種の経費削減なのだろうか。
	製造業（印刷業）	ますます勝ち組と負け組がはっきりとしていくと思われる。また、経済が良くならなければ治安の悪化等あらゆる面に影響が出てくるのが考えられるため、心配である。
	製造業（石材業）	衣食住が足りて石材（特に墓石）が売れるのが常道であるため、世の景気が良くなっても石材業の景気は一年後れる。また、安いものが売れる傾向から丁寧な説明すれば良いものが売れる傾向に変わりつつあると思われる。
	製造業（石材業）	どの業界においても忙しい業者と仕事がない業者に分かれており、中間のところがない。今月は運転代行業は大変忙しいようであるが、スナックやクラブ等では客からの閉店後の食事の誘いが少ないようである。
	製造業（電気機械器具）	新発売になったゲーム機は久しぶりの好材料であると思われるため、今後の流れに注意したい。
	製造業（印刷業）	「店主が大手企業の深夜労働をしている」「後継者がいないためいつ廃業するか考えながら経営している」等々、地場の企業、商店は困窮が続いており、暗い話が多い。
	非製造業（建設業）	自動車産業は景気が良いようであるが、建設関係は石油製品、鉄鋼の値上げや品不足（鉄）があり、いまだ回復していない。また、大手ばかり民事再生法を適用させているが、あまり意味がないように思われる。
	非製造業（広告業）	寒さがまだ本格的になっていないため、冬のセールスのチラシが遅れている。また、近辺で若い人の開業が目立つ。
	非製造業（コンサルタント業）	最近建設骨材等を運搬するダンプカーの動きが目立ってきているように思われる。しかし、軽油等の価格上昇で内情はかなり厳しいようである。
	雇用関連	人材派遣業
求人広告		以前は製造業への派遣ばかりが目立ったが、現在はドライバーやサービス業など多業種への派遣が増加している。
学校就業関係者		鉄鋼の価格が上がっているため自動車部品の価格を上げざるを得ないとの声が多く聞かれる。